岩崎久彌男爵ニ對スル殺人豫備事件

本籍　千葉縣安房郡豊田村大字加茂三〇七番地平民戸主
住居　當時不定　無職
加茂静事　鈴木伸治
明治三十二年七月廿九日生

右者昭和十八年三月二十日午后三時二十分頃男爵岩崎久彌當七十八年ヲ暗殺ノ目的ヲ以テ管下本郷區湯島切通町一番地ノ同人邸宅ニ至リ海軍ナイフヲ左手（左利キ）ニ把持シ内玄關ヨリ無斷侵入目標人物ヲ求メテ着靴ノ儘奥ノ間ニ通ズル廊下ニ於テ同家使用人ニ依リ目撃ヲ受ケ自由ヲ失シ其ノ目的ヲ果サズ所轄本富士署ニ檢擧セラレタリ依テ本名ノ思想目的等ノ關係ヨリシテ當課ニ於テ取調ノ結果背後共犯關係ナク本名ノ單獨犯行ナルコト明カトナリタルヲ以テ四月九日殺人豫備竝住居侵入罪トシテ一件記錄ヲ東京刑事地方裁判所ニ送致ノ處十五日身柄ヲ東京拘置所ニ收容（強制）引續キ四月二十二日殺人豫備竝住居侵入罪ニテ起訴同時ニ東京區裁判所ニ移管セラレタルガ

犯行内容左記ノ通リ

イ 犯人ノ環境

本籍地ニ於テ雜貨商ノ家庭ニ生育シタルモ少年期ノ大患ニ依リ母親ノ偏愛ヲ生ミ我儘意固地然カモ活動的動作ヲ嫌フ極メテ陰性ノ性格ト爲リ二十八才ノ頃父ノ急死ニ遭フモ家業ヲ繼續スルノ才能ナク遂ニ破産母妹ト日雇階級ニ轉落シ昭和十六年就職ノ爲メ單身上京第一徵兵保險株式會社ニ小使（日給一圓五十錢）トシテ雇レタルモ本年二月辭シ生活極メテ乏シキ状態ニアリタリ

ロ 動機

犯人ハ在郷中ヨリ專ラ佛基ノ教書ニ親シミ兼ネテ社會問題ニ關心ヲ有スルニ至リ特ニ經濟面ノ革新論ニ興味ヲ寄セ就職ノ爲メ上京シ居ヲ本郷區駒込淺嘉町ニ定ムルヤ附近ニ國粹同盟ノ所在スルヲ知リ日本主義觀ヨリシテ基督教ニ慊ラサリシ折ナリシ爲メコレヲ機トシテ昭和十七年二月同教ヨリ離脱シ直チニ該同盟ニ入黨スルニ至レリ斯クテ平素抱懷セル經濟革新ハ財閥ノ經濟奉還ニヨリ實

現ストノ信念ヲ深メツヽアリシニ偶々該同盟主催ノ講習會ニ於テ松永材、増田正雄等ノ財閥論、ユダヤ禍ニ關スル講演ヲ聽取シ更ニ其ノ信念ヲ固メ日時ノ經過ニ從ヒ合法運動ニテハ目的達成ハ容易ナラズ且大東亞戰爭下一刻モ早急ニ革新ノ達成ヲ計ラサレバ亡國ノ危キニアリト思推シ遂ニ昭和十七年末直接行動ニ依リ財閥ノ代表者ヲ殪シ以テ經濟奉還ヲ實現セント決意スルニ至リタリ

ヘ準備行動

右決意ヲ固ムルヤ同志獲得武器（拳銃ノ類）入手ヲ企圖其ノ對照ニ

影山正治主宰ノ大東塾[illegible]ヲ選ビ本年二月十四日「惟神道修行」ヲ理由ニ[illegible]シ待機[illegible]僅カ五日ニシテ持病ノ胃痛ヲ發シ十數日間病臥ノ止ムナキニ至リ爲メニ明日ヘノ生存ニ自信ヲ失ヒ此ノ儘病床ニ殪ルヽヲ本意ナラズト焦慮ノ結果ハ同志武器ノ獲得ヲ断念單身ニテ三井財閥代表、三井高公、三菱財閥代表、岩崎久彌ノ何レカヲ暗殺スベク決意シ

本年三月十一日「病氣療養ノ爲メ歸郷ス」ト偽リテ大東塾ヲ出奔
爾來市内ノ知友或ヒハ目見得奉公等ニテ住居ヲ轉々シ
此ノ間三月十二日十三日十四日十五日ノ四回ニ亘リ目標人物三井
高公ノ出入スル日本橋區室町一、三井總元方ノ玄關口及其附近自
動車ノ發着地點、三月十二日同十五日ノ二回前記岩崎久彌邸ノ正
門及邸宅ノ周圍等ノ模様ヲ偵察シ三月十三日ニハ武器トシテ使用
ノ意圖ニテ日本橋三越四階運動具用器賣場ニ於テ

海軍ナイフ　壹　挺

ヲ金七十五錢ニテ買ヒ求メ爾來決行時迄外套及至上衣ポケットニ
納メ携行シ準備行動ヲ整ヘツヽアリタリ
三月十九日ニ至リ明日決行ノ意ヲ決シ
目黒區上目黒三ノ一九一一遠縁ニ當ル高橋宗五郎方ニ一泊
大東塾　影　山　英　男　宛ニ
「無斷退塾ト金子ノ未返却經濟維新ノ爲メノ念願決行」ヲ便箋二
枚ニ認メ翌二十日午前十一時高橋方ヲ出デ日本橋三越ニ赴キ[illegible]

ヲナシ同店西口傍ポストニ前記影山英男宛ノ書信ヲ投入(該信書ハ封入シタルト錯覺シタルモノニテ實物ハ高橋方ニ遺留シアリ影山ニハ三月廿二日封筒ノミ到着セリ)直チニ三井總元方玄關口ニ向ヒタリ

二 犯行狀況

右三井總元方玄關口ニ至リシ處當日ハ土曜日ノ爲メカ既ニ閉鎖サシアリシタメ急據目標人物ヲ岩崎久彌ニ變更直チニ市電ニテ上野廣小路ニ至リ松坂屋ニテ小憩ノ後湯島天神ニ暗殺成功ヲ祈願同境内ニテ目潰用ニ小石五六ケヲ拾ヒ海軍ナイフノ刄ヲ引キ出シ右ズボンポケツト(犯人ハ左利)ニ納メ同境内ヨリ直チニ向ヒ側ノ岩崎邸ニ到リ正門ヨリ來訪者ヲ粧ヒテ守衞ヲ僞リテ玄關口ニ到着無斷扉ヲ排シ侵入シタル折取次人齋藤正太郎ヨリ聲ヲ掛ケラル、ヤ用意ノ小石ヲ投ゲ付ケ更ニ海軍ナイフヲ左手ニ把持シタリ

此處ニ於テ齋藤ハ「強盜」ト叫ビ逃レタルニ乘ジコレヲ追跡シテ犯人ハ書齋ノ側ヨリ坐間ヨリ更ニ六疊應接室ニ侵入執事平井順ヲ押

間容中消火薬ヲ浴ビセカケレ兩眼球モ自由ヲ缺キ當廊下ニ於テ家人ニ取押ヘラレ其ノ目的ヲ果サザリシモノナリ

尚當日岩崎久彌ハ旅行中（靜岡縣下長岡溫泉）ニシテ在邸セザリシモノナリ

3 拳銃暴發事件犯人

本籍　東京府郡岩淵町字男山戸主清春長男

住所　本郷區駒込神明町三三九

皇道翼賛青年聯盟

委員長　毛呂清曦

當三十一年

右者皇道翼賛青年聯盟委員長トシテ至軒寮々長穂積五一、福岡ますらを塾々頭大和正俊等ノ同志ト緊密ナル聯携ノ下ニ全國ニ渉リ活潑ナル運動展開中ナルガ去ル三月二十五日聯盟事務所ニ於テ兼テヨリ親交アル

住所　滿洲國哈爾濱市中國十六道街二十七

日本興業合資會社

代表社員　中川德義

當三十二年

ヨリ「ブローニング」型八連發拳銃一挺ニ實砲五發ヲ無許可ニテ入手シ同三十日頃水戸練兵場ニ赴キ二發ヲ試射シ來リタルガ四月一日肩書住所二階三疊ノ居室ニ於テ二發ヲ盲射シ一發ハ居室ノ壁ヲ貫通シ隣家大村弘方二階硝子窓ヲ損壞シ一發ハ居室內ニ[illegible]事件發生本月四日右大村方ヨリ届出アリ[illegible]捜査ヲ開始シ、被疑者毛呂[illegible]外關係者二名ヲ檢擧嚴重取調タルニ、何等ノ意圖ナク盲射セルコト判明セルヲ以テ拳銃並實砲一發ヲ領置ノ上四月二十二日被疑者毛呂ヲ釋放セリ。

(2)　事件關係者ノ動靜

● 所謂天誅組事件關係者

本件關係者中昭和十七年四月二日上訴權ヲ放棄シ服罪（懲役八ケ月未決八十日通算）セル

福原仁榮　齋藤五郎　林　弘

ノ三名ハ同年七月六日假出獄ノ恩典ニ浴シ豊多摩刑務所ヲ出所

福原ハ　淀橋區柏木一ノ一一九森谷方內妻ノ下ニ

林　ハ　淀橋區百人町二ノ六二齋修會（免囚保護事業）

齋藤ハ　京橋區越前堀三ノ二岡部一夫方

ニ落着キタリ

其ノ後林ハ齋修會ノ事務手助ヲ爲シ生計ノ途ヲ求メ現在ニ及ビタルモ福原ハ內妻ノ收入ニテ辛クモ生計ヲ維持シツヽアリ

本年四月二十日

淀橋區十二社四一六番地關東ハウス、ニ移轉ス

齋藤ハ出所後宿痾ノ肺結核昂ジ療養ノ爲メ同年七月三十一日鄕里、（秋田縣由利郡西目村西目）ノ實兄民五郎方ニ歸省シタルガ九月

末上京次デ十一月下旬生計ノ為メ
方ニ書生トシテ寄寓中ニアリシガ本年四月十九日宿所ノ為同家ヲ出デ

日召事 井上 昭

歸郷ノ途ニ就ケリ

尚本件ノ主謀者、西里金藏ハ判決後四月一日保釋ヲ許サレ引續キ刑ノ未執行中ニテ薬茶ノ販賣等ニテ生計持續中ニアリテ本名等相互ノ深交度ハ事件前ノ如ク密ナラザルモ生活ノ不安定ノ現況ヨリシテ其ノ動向ハ特ニ注意ヲ要スル處ナリ

2 神兵隊事件關係者

天野辰夫ニ在リテハ其ノ傘下ニまことむすび運動、維新公論社ヲ納メ其ノ股肱トモ云フベキ

片岡 駿　中村 武

ハ目下平沼國務相狙撃事件ニ關シ未決勾禁中ニアリトハ雖ヘ既ニ全國的ニ相當ノ組織ヲ有スル現況ニシテ其ノ言動ハ常ニ極メテ矯激ニシテ機關紙ノ殆ンドハ毎號發禁處分ニ附サル狀態ニアリ偶々去ル八

十一議會ニ於テ衆議院ヲ中心トスル戰刑法反對運動起キルヤ機ヲ逸セズコレヲ捉ヘ「維新公論」三月號ニ「日本國体上ノ大義名分ー聖戰必勝ノ第一ノ要件」

ノ題ニ

東條內閣ノ閣員ハ一二ヲ除キ悉ク「國策研究會員」デアリ「日本ロータリークラブ員」ナルヲ強調誹謗スル社說ヲ執筆登載シ

維新公論社代表、市毛康隆ハ　葦牙寮代表、葦津珍彥ニ

右天野ノ原稿ヲ手交シテ其ノ

編輯ノ自由ヲ有スル報國新報ニ

「東條首相ニ忠言スー戰時刑事法改訂絕對不可ー（昭和十八年三月七日付）」

ト題名同一內容ノ記事ヲ登載セシメタル廉ニヨリ

三月七日天野（勾引狀）三月八日葦津珍彥、幡掛正浩（報國新報關係）芥川治郎（維新公論關係）三月廿日市毛等ヲ新聞紙法違反トシテ檢閱課ニ檢擧シ取調ノ上天野、芥川、市毛ノミ身柄送致ノ結果、

言論出版集會結社等臨時取締法違反トシテ三月十五日（市毛ハ三十一日）區裁判所ニ移管起訴セラレタリ身柄ハ天野、芥川ハ三月十七日市毛ハ二十三日釋放トナリタルガ四月十九日天野ハ公判請求（五月十九日開廷豫定）

葦津、芥川ニ對シ略式罰金（前者百五十圓、後者二百圓）ノ言渡アリタリ、天野ハ本公判ヲ通ジ更ニ東條首相ヲ駁論シ公判戰ヲ展開スルトノ意嚮ヲ堅持シ居リ然カモ五月三日ヨリ東京刑事地方裁判所ニ於テ開廷豫定ノ前記平沼事件公判之ト併行進行スル状況ニアレバ社會的反影ハ相當大ナルモノアリト豫想セラレ從テ其レニヨリ生ズル波及力ヲモ嚴ニ警戒ヲ要スル處ナリ

一、革新陣營內ニ於ケル主タル團体ノ動向觀察取締

第二十一回總選擧ノ結果ハ翼協推薦候補者ガ壓倒的ニ多數當選セリ、此ノ事ハ飽ク迄國民ガ政府ヲ支持シ擧國一致大東亞戰爭完遂ニ邁進セントノ決意ヲ示シタルモノト解セラレ此ノ選擧ノ結果擧ゲ得タル國民的熱意凝結ノ機ヲ逸セズ國民各階層ヲ網羅シテ擧國的政治體制ノ強化ヲ圖ル可シト朝野ノ呼吸此處ニ一致シ翼贊政治會ノ發足ヲ見タルガ此ノ大勢ニ政治結社トシテ數名ノ代議士ヲ擁セル東方同志會其他ノ革新團體ニ於テモ左ノ如ク思想結社トシテ左記ノ如ク改組再出發ヲ見ルニ至レリ

昭和十七年七月二十日許可　國粹同盟　（舊名　國粹大衆黨）
〃　大日本皇道會　（〃　建國會）
〃　やまとむすび　（〃　大日本黨）
〃　大日本一新會　（〃　生產黨）
〃　東方同志會　（〃　東方會）

然ルニ之等團体ハ代議士其ノ他ノ政治家ヲ有シ又巧ニ時局ヲ捉ヘ之ヲ

批判セル等周密ナル注意ヲ要スルモノアルヲ以テ嚴密ナル視察中ナル
ガ其ノ動向左記ノ如シ

㈠主要團体ノ動向

(1)東方同志會（會長　中野正剛）

本會ニ在リテハ昨年五月總選擧ニ際シ年來ノ政治的飛躍ノ好機ナ
リトシテ翼協ノ推薦ヲ拒否シ獨自ノ立場ヨリ統制經濟問題ヲ唯一ノ
鬪爭目標トシテ全國ヨリ四十一名ヲ東方會公認トシテ立候補セシメ
最少三十名ノ當選者ヲ獲得スベク言論戰ニ重點ヲ置キ活潑ニ運動ヲ
展開セルガ其ノ結果ハ豫期ニ反シテ僅カニ六名ノ當選ヲ得タルニ過
ギザリシ爲メ斯ル慘敗ニ陷リシハ畢竟不當ナル選擧干渉ニ基因スル
モノナリトシテ憤懣的態度ヲ持シ居リタルガ遂ニ時流ニ抗シ得ズシ
テ主宰團体タル政治結社東方會ヲ東方同志會ナル思想結社ニ改組シ
中野會長以下所屬代議士ハ擧ゲテ翼政會ニ參加シ表面的ニハ政府支
持ノ如キ態度ヲ装ヒ居リタルガ次イデ六月施行ノ東京市々會議員選

擧ニ際シテハ總選擧ノ成績ニ鑑ミ其ノ中堅分子タル支部長ニ動揺ヲ來タシ自己保身ノ爲メ向島支部長瀧澤過平外二三ハ他團体ニ出入スル等觀的態度ヲ持スルモノモアツタ。斯シテ管下ニ於テ豐島支部長的場茂以下一〇名何レモ非推薦デ出馬シタノデアルガ一名ノ當選者モ無キ全敗ノ悲運ヲ喫スルニ致ツタノデ之レ等支部長ニ於テハ順次本部ニ敬遠的態度ヲ示シ凋落ノ兆候ヲ呈スルニ至レルガ本部ニ於テハ内心狼狽シコレガ收攬策ニ焦慮腐心スルニ至レリ

然ルニ大東亞戰争モ漸次長期戰ノ様相ヲ呈シ且政治的季節切迫セルヤ好機至レリトナシ漸次反政府的觸角ヲ露ハシ十二月四日淺草公會堂（聽衆約一二〇〇名）ヲ前哨戰トシテ同十日本郷駒込中學校（聽衆的一〇〇〇名）等ニ於テ戰力昂揚大演説會ナルモノヲ開催シタルガ總裁中野正剛ハ淺草公會堂ニ於テ政府ノ施策特ニ統制經濟ヲ誹謗シテ國民ノ統制經濟ニ對スル協力心ヲ阻害セシムルガ如キ煽動的論調ニ終始セルヲ以テ其ノ所論ニ嚴重ナル注意ヲ爲スト共ニ同二十一日日比谷公會堂ニ於ケル演説會ニ際シテ代表者河野金昇外一名ヲ冨

課ニ招致嚴重ニ事前警告ヲ與ヘタルモ同公會堂ニ於ケル

スローガン

一、命捧ゲテ悔ナイ政治

一、皆ガ勇ンデ働ク政治

以下四種ヲ掲出シ其ノ内

一、國策ニ便乘スル不當利得ノ禁壓

一、權力ト結ビツク惡資本ノ絶滅

ノ二種ハ不穩當ト認メ自發的ナル撤去方ヲ諭止シタルモコレヲ肯ゼルノミナラズ定刻到來ノ故ヲ以テ其ノ儘開幕ノ氣配モ看取サレタルヲ以テ所轄丸ノ内警察署ニ於テ之ヲ撤去セリ、斯クシテ最初ヨリ險惡ナル空氣裡ニ午后一時ヨリ開會セルガ辯士中野正剛ハ聽衆約三〇〇〇名ニ對シ「國民的必勝陣ヲ結成セヨ」ノ演題下ニ却ツテ前二回ヨリモ激越ナル論調ヲ以テ前後四時間ニ渉リ歐洲前大戰時ニ於ケル獨逸ノ統制經濟並ニ國内態勢ヲ解剖シテ吾ガ現下ニ於ケル態勢ガ恰モ獨逸ノソレノ如キ直感ヲ與フル諷刺的ナル論鋒ニ出デタル爲メ聽

衆ハ熱狂シテ「統制經濟ハ破壞ダ」「日本ニ於テモ然リ」等々ノ煽
次ガ續出シ宛然往時ニ於ケル左翼集會ヲ髣髴セシムルモノアリ辯士
ニ對シテモ注意三件ノ言論制限ヲ加ヘタリ
而モ機關紙ニ於テモ國民ニ迎合的ナ非建設論多ク且
中野正剛ハ一月一日朝日新聞ニ「戰時宰相論」ト題シ吾ガ國ハ世界
無比ノ皇室ヲ戴イテ居ルガ故ニ戰時宰相ハ必ズシモ蓋世ノ英雄ナ
ラズトモ其ノ任務ヲ果シ得ルモノデアル云々ト首相不信ノ念ヲ誘致
セシムルガ如キ論評ヲ爲シ次イデ機關紙「東大陸」及「東方時報」
ト二月二十日附ニ於テ「天下一人ヲ以テ興ル」ノ標題ノ下ニ

激派ハ國ノ寶ナリ
岸商工大臣ノ「ユダヤ」排撃
「ヒツトラー」ノ「ユダヤ」撃滅
ゼロノ智能トネロノ暴慾
我ガ經濟革新案
所謂革新官僚ノ「イデオロギー」

住宅營團ノ失敗

木材ノ出ナクナツタ理由

以下十數項ニ分説シテ現下ノ統制經濟ヲ批判論難セル爲メ何レモ發禁處分ニ附サルヽニ至レリ

然ルニ本部ニ在リテハ右ハ日比谷公會堂ニ於テ政府ニ對シテ爲シタル一大巨砲ニ對スル當局ノ不法彈壓ナリト斷ジ飽ク迄抗爭スル爲メ今後益々同志的結束ヲ鞏固ナラシムル事ガ急務ナリト巧ミニ之レヲ黨勢擴張ノ具ニ供シ一月十五日世田ケ谷區成城町振東塾ニ於ケル關東地區連絡者會議席上ニ於テ事其ノ善云シテ會員ヲ鼓舞激勵スルト共ニ黨勢擴張ヲ目的トシテ全國的ナル講演會座談會ノ開催ヲ計畫セルガ當局ノ強硬態度ニ狼狽シ右計畫ヲ中止セシメタノデアツタ

斯クテ第八十一議會ニ於テ戰刑案上提サレ推薦問題附議サルヽヤ、累積セル憤懣ヲ此處ニ集中シ他ニ先嚗シテ反對運動ヲ展開シ殊ニ戰刑問題ニ關シテハ理事三田村武夫ガ司案委員ナリシ爲メ該法ハ暗黑

政治ヲ現出スル憲法違反ノ悪法ナリトシ皇道翼賛青年聯盟ノ會合ニ出席シテ反對ノ氣勢ヲ擧ゲ或ハ三月五日三田村武夫名ヲ以テ

戰時刑事特別法改正案反對の檄

戰時翼賛議會の本領に徹せよ

ト題シ反對理由トシテ

一、國政の意義不明確

二、憲法上の疑義

三、一億鉄石の擧國決戰體制確立のために

以上ニ分説セル印刷物ヲ作成衆議院議員全員ニ對シ郵送スル等議會内外ヲ通ジテ極力之レガ通過ノ阻止運動ニ没頭シタノデア

該案ガ無修正ニテ通過セラル、ヤ尚釋然タラザルモノアリ、三田村武夫ハ四月一日「戰時刑法改正と憲法問題」ト題シ

なぜ原案に反對したか

1 立法の目的内容に疑義あり

2 國政の意義内容に疑義あり

3 立法目的に疑義あり

4 憲法上の疑義

5 戦争に勝つために日本の政治は如何にあるべきか

以上ノ反對經緯ヲ誇張セル「パンフレツト」ヲ衆議院議員其他關係方面宛發送セル爲メ削除處分ニ附セラレ、嚴重ナル注意ヲ受ケタリ斯クシテ本會ノ言論並ニ印刷物ニ關シテハ峻嚴ナル取締ガ要請サレ三月十五日經濟情報懇話會席上ニ於ケル中野正剛ノ講演不許可處分トナルヤ本部ニ於テハ周章狼狽シテ進藤一馬、長谷川峻外一名ヲ[illegible]ニ出頭コレガ局面打開ニ陳情セルガ次イデ三月三十一日日比谷公[illegible]堂ニ於ケル[illegible]一百年祭並ニ[illegible]會ニ於テ中野正剛ノ講演不許可處分ニ會フヤ本部ニ於テハ三田村武夫、河野金昇外三名ニテ内務省ヲ訪問三好警保局長ニ面會抗議的陳情ヲナセルモ「其ノ名分ノ如何ンタルトヲ問ハズ當分ノ間中野會長ノ講演ハ許可セザル方針ナリ」ト一蹴サレタルガ一面同會内ノ反撥的空氣ハ濃厚トナレルヲ[illegible]テ之ガ動靜ニ關シテハ格段ノ注意ヲ拂ヘリ「而シテ同會幹部ノ

當局訪問」懇談ノ結果本部ニ於テハ四月五日
戰局ノ現段階ニ鑑ミ當面ノ活動ヲ主トシテ會員相互ノ質的向上ニ重
點ヲ置キ

1東方同志會主催ノ演説會、講演會ハ當分ノ間之ヲ行ハズ
2東方同志會員ノ錬成並ニ組織擴大ノ爲ノ座談會錬成會（移動塾）
研究會ハコレヲ益々活潑ニ開催ス

追記

右ハ内務當局ト懇談濟ミノ事項ニ付キ各地方會員ニ於テモ其ノ
心構ヘニテ府縣當局ト接衝相成度シ
尚内務當局ヨリハ各府縣廳宛右ノ件通牒アリタル筈ナリ

ト大要右ノ如キ指令ヲ全國關係方面宛發送スルト共ニ目下世田ケ谷
區成城町振東塾ニ於テ隨時會員短期錬成會ヲ開催爲シツヽアルガ、
四月十一日右錬成會ニ於テ中野正剛ハ「日本外史抄」ノ講義ヲナシ
タル後「香木ハ燒カレテ芳香ヲ放ツガ如ク人間ハ所謂天ノ試錬タル
逆境困難ニ遭遇シテコソ始メテ其ノ天稟ヲ發揮シ得ルノダ、人間ハ

艱難ニヘダバッテハ駄目ダ、宜敷壮烈デアラネバナラヌ」云々ト諷刺的ナル説明ヲ為シ會員ノ奮起ヲ要望スル所アリ

斯ノ如ク本會ニ在リテハ今後益々内外ニ於ケル客観的情勢ノ推移ニ伴ヒ順次反政府的思想ノ尖鋭化ガ豫想サレ、コレガ言論印刷物等ニ對シテハ十二分ナル注意検討ヲ要スルハ勿論右翼陣營ノ横斷的結成ノ策謀及中野正剛ニ對スル狂信的崇拝者並ニ東方青年隊員ノ動靜ニ關シテ寸毫ノ楽観モ許サザル現況ニアリテ引續キ注意警戒中ノモノナリ

(2) 國粹同盟(笹川良一)

本會ニ在リテハ總裁笹川良一ノ衆議院議員當選後中央進出ヲ策シテ、赤坂區田町七ノ一一番地ニ分室ヲ設置スルニ伴ヒ管下ニ於ケル運動ハ頓ニ活況ヲ呈スルニ至リ總選擧ニ次イデ東京市會議員選擧ニ際シテハ蒲田區ヨリ秘書局長藤吉男非推薦ニテ出馬見事榮冠ヲ贏得タル為メ九月二十日蒲田區仲蒲田一ノ七番地ニ仲義會ナル親睦團体

ヲ結成シテ政治勢力ヲ扶植スルト共ニ本郷區湯島町常徳寺ニ於テ隨時講演會、座談會ヲ開催シ或ハ宣傳印刷物並ニ機關紙「國粹運動」九月十七日ヨリ發刊シテ極力黨勢擴張ニ專念セルガ東條内閣ニ對シテハ推薦問題ニ關シ尙釋然タラザリシモノアリシモ戰爭完遂ナル大乘的見地ニ立脚シテ現政府支持ノ如キ表面的態度ヲ持續セリ

然ルニ第八十一議會開會セラルヽヤ他ニ先驅シテ推薦選擧反對ノ烽火ヲ擧ゲ遂ニ執拗ナル政治問題トシテ議會ニ異彩ヲ放タシムルニ至レリ、斯クシテ本問題ハ政府當局ノ所信闡明ニ依リ最惡ノ事態ニ逢着セズシテ一應解決セラレタルモコレガ視察取締ニ關シテハ細心ナル注意警戒ヲ要セリ

其ノ後本會ニ在リテハ三月十六日ソノ發足地大阪市中之島中央公會堂ニ於テ結盟第十二周年記念關西大會並ニ同記念講演會ヲ開催スルト共ニ四月二十二日日比谷公會堂ニ於テ同關東大會並ニ記念講演會ヲ開催セルガ辯士總裁笹川良一、企畫局長吉松正勝、秘書長新田貫平、中央委員飯島與志雄ノ以上四名ハ聽衆約三〇〇〇名ニ對シテ何

レモ大東亞戰爭完遂ノ爲メ必勝不敗ノ國内態勢ヲ確立強化セシムル事ガ必要ナル旨ヲ強調相當ノ感動ヲ與ヘ盛會裡ニ散會セルガ右辯士中吉松正勝、大政翼贊會ヲ誹謗セントスルガ如キ所論アリタルヲ以テ注意一件ノ言論制限ヲ受ケタリ

斯ノ如ク本會ハ黨勢擴張ノ爲メニハ手段ヲ考究セズ或ハ激越ナル宣傳印刷物ヲ作成シ又ハ言動ヲ敢テ爲シ若シクハ右翼陣營ノ大同團結ヲ策スル等コレガ動靜ニ關シテハ十二分ナル注意視察ヲ要スルモノナリ

(8)大日本赤誠會（橋本欣五郎）

本團體ハ橋本會長ノ所謂「橋本欣五郎宣言」ヲ信條トシテ活潑ナル國民組織運動ヲ伸張シ來タリタルガ、昭和十二年七月ノ支那事變ノ勃發スルヤ對外的ニハ北守南進、對内的ニハ現狀維持勢力即チ親英米派ノ勢力粉碎ヲ具体的鬪爭目標トシテ熾烈果敢ナル南進斷行攘夷討幕ノ政治思想運動ヲ全國的ニ敢行セル折柄偶然大東亞戰爭ノ勃

發及翼賛政治會ノ結成ニ因ツテ我等ノ主義、主張ハ漸次實現セラレツヽアルヲ以テ今後ハ國策ニ順應スルト共ニ國家ニ有用ナル中堅的中核的人士ヲ錬成シ、以テ民族興隆、聖戰完遂ニ邁進スルトナシ、本部其ノ他ニ於テ幹部並青少年ノ各種講習會ヲ屢次ニ渉リ開催シ、去年六月二十五日ヲ期シ全國支部ヲ一齊ニ總組織ニ改編只管中堅層ノ訓練育成ニ專念スル傍ラ大東亞戰爭後ノ必勝體制ハ生産增强ニアリトシテ研究ニ努メツヽアリタル處同十一月二十五日本部ヨリ「飛躍的增産體制綱領」ヲ發表スル外「飛躍的增産必成國民運動展開ニ關スル活動要領」ヲ作成全國ニ向ケ發表シ其ノ運動目標ヲ明ニシテ果敢ナル運動ノ展開方ヲ慫慂セリ

爾來政府ノ生産增强運動ニ呼應シ來リタルガ會勢頓ニ沈滯セルヲ以テ之レガ振起挽回ヲ企圖、本年初頭ヨリ生産ノ一大增强運動ヲ展開スベク準備二月中旬頃ヨリ都下全塾ヲ一齊動員シ全國大會ヘノ準備講演會ヲ實施スル外三月十三日ニハ名古屋市ニ、同十八日ニハ大阪市ニ、同二十八日ニハ福岡市ニ夫々地方大會ヲ持チ續イテ四月一

日ニハ小石川區春日町ノ後樂園ニ約四〇〇〇名ノ會衆ヲ得「皇國生産者全國大會」ヲ開催シ決戰下ノ最緊急事ハ生産ノ飛躍的增強ニアリト全國生産人ニ對シ一大猛省ヲ促シタルガ同大會ハ豫期ニ反シ氣勢揚ラズ爲メニ本部ニ於テハ從來ノ運動方針ニ再檢討ヲ加ヘツヽアリタル處其ノ結果不振ノ基因ハ從來ノ運動方針ガ革新勢力トシテノ純粹性ヲ喪失セルニアルコトヲ發見シ此ノ程全國ニ所在スル塾ニ一大刷新ヲ加ヘ以テ眞ニ革新勢力タルノ實ヲ加フベク決意目下之レガ具体方策ノ準備中ニシテ、今後ノ動向ハ極メテ留意スベキモノアリト認メラル

(4)大日本皇道會（赤尾敏）

本團体ハ大正十五年二月十一日創立以來終始一貫其ノ行動目標ヲ共産主義撲滅ニ置キ對外的ニハ蘇聯邦ノ覆滅擊攘ヲ信條トシテ果敢ナル運動ヲ展開シ來タリタルガ時局下戰略外交上ノ見地ヨリ其ノ運動目標ヲ表面轉換スルノ已ムナキニ至リ爾來苦慮中客年五月施行ノ

衆議院議員選擧ニ荒川區ヨリ出馬第三位ヲ以テ當選後ハ新ニ院内ニ於ケル活動分野ヲ獲得スルニ至リ以來頭山滿、井上昭等ノ右翼巨頭ト連絡ヲ密シ愛國陣營有志代議士會並ニ佐藤隆治郎等ノ右翼陣營大同團結ノ諸會合ヲ通ジ院内及翼贊政治會内部ノ指導權把握ニ積極的活動ヲ展開スルト共ニ院内ニ於テハ推薦制、戰刑法、東京都制案等ノ諸問題ヲ捉ヘテ果敢ナル質問戰、文書戰ヲ敢行セルガ諸議案ノ議會通過ニ依リ以上ノ運動モ消極化シ目下議會報告演説會ヲ兼テノ組織擴充運動ニ邁進シ居ルノ狀況ニアルモ時局ノ逼迫ト狀勢ノ如何ニ依ツテハ本團体年來ノ主張タル蘇聯擊滅運動ヲ再燃セシメルヤモ知レズ其ノ動向ニ就テハ嚴重内偵中ナリ

(5) 大日本一新會（舊大日本生産黨）

一、改組ノ經緯

本會ノ前身タル大日本生産黨ハ法的ニハ政治結社ナリシモ其ノ實質ハ思想結社タル性格ヲ有シ議會進出ヲ排擊シ專ラ思想運動ノミ

ヲ實踐シ來リタルガ斯ル内部的矛盾ヲ包藏セル結果ハ自ラ硬軟兩
派ヲ生シ

黨ヲ革新的大衆政治組織体トシ積極的ニ議會進出ヲ企圖スベシ
ト為スモノト

飽ク迄モ内田黨祖ノ道統ヲ相承シ醇乎タル浪人道ヲ以テ縦横陣
營ノ中核体タルベシ

ト主張スルモノトニ分ルヽニ至レリ

コレヨリ先（昭和十五年十一月）吉田總裁ハ斯ル暗雲ヲ一掃シ清新味ヲ注入スル為メ「青年隊」ヲ組織シアリタルガ、茲ニ於テ更ニ國家ニ挺身奉公シ得ル優秀青年ノ獲得ニ專念、青年隊ノ組織活動ニ主力ヲ傾注シ以テ急進分子ノ統率ニ砕心シツヽアリタリ

偶々十六年十二月大東亞戰爭勃發シ又言論、出版、集會、結社等臨時取締法ノ施行セラルヽアルニ及ビ院内ニ於テハ之ヲ機ニ「黨ノ使命一應完了」ヲ理由トシ思想結社ヘノ改組方ヲ吉田總裁ニ進言スル者アリ外部的ニハ翼政結成後ノ各種政治結社ハ進ンデ解消

之レニ合流スル等國內政治体制ノ一變スルアリ、甚ダシク之ニ刺戟セラレ政治結社トシテ此ノ儘存續スルノ極メテ不利ナルヲ覺リ遂ニ六月二十八日ノ十七年度全國大會ニ於テ黨ノ解消

思想結社　大日本一新會

ノ創立ヲ決定

嚴かに全國同憂の士に訴ふ

玆に大日本生產黨を解消し前進一步新たに大日本一新會を創設す

昭和六年六月二十八日大日本生產黨結成せられしより十有二年回顧すれば誠に血涙苦鬪の一道なりき……

ト聲明シ逞シキ新發足ヲ爲セリ

二、改組ヨリ本年度全國大會ニ至ル間ノ動向

右ノ如キ經緯ニテ思想結社ニ改組セラレタルモ道ハ本質的改變ニ非ズ、即チ之レヲ以テ「異分子ヲ排除シ眞乎浪人道ヲ護持履践シ純正維新ノ大道ニ殉ゼムトスル脱皮作用ニシテ寧ロ本然ノ姿ニ還

元シタルモノナリ」トシ組織機構ヲ改編、新役員ヲ發表シ吉田總裁統卒ノ下同志的結束ヲ固メ言論ニ、文書ニ又會員錬成ニ果敢ナル運動ヲ展開セリ即チ

1 演說會

六月二十九日日比谷公會堂ニ於ケル「世界一新大演說會」ヲ皮切リニ大阪、京都等ニ於テ大演說會ヲ開催、尚全國大遊說第一期計畫トシテ八月二十四日ヨリ九月下旬ニ至ル間ニ十數ケ所、第二計畫トシテ十月六日ヨリ十一月二十三日ニ至ル間ニ於テ二十六ケ所ヲ發表其ノ大部分實施シ又

2 講習會トシテハ

七月二十三日—同二十七日

於　京都市　　青年隊參謀錬成講習會

十月二十九日—十一月一日

於　熊本縣湯ノ谷溫泉　　九州地區幹部講習會

十一月二十二日—同二十五日

於　新潟市　北陸東北地區幹部講習會
三月五日―同七日
於　埼玉縣大宮市　關東地區幹部講習會
四回ヲ實施

3　文書

毎月一回機關紙「一新」ヲ發行スル他八月ニ八
「一切の俗論を排して徹底改革を貫行せよ」
段
「國內維新の完遂より全世界の皇化一新へ」
ト題スル宣傳用傳單ヲ作成全國ニ頒布

4　議會ヲ繞ル運動

第八十一議會ニ於ケル都制市町村制改正法律案、戰時特別法改正法案等ニ對スル審議遲々トシテ進マズ又院外ニ於テハ之レ等法案ニ對シ反對運動ノ熾烈ナルモノアル狀況ヲ目シ決戰態勢ヲ紊スモノナリトシ其ノ推移ニ多大ナル關心ヲ示シアリタル處ニ

月二十五日

………惟ふに皇國議會の本旨は一切の私を滅して神意皇猷翼賛公の公議を盡すにあり、特に大戰下議會にありてはこの大事を急速果敢に遂行せざるべからざるなり………末節枝葉の空議徒論は斷じて許容せられざるなり、然るに頃來本議會に於て審議されつゝ状態を見るに審議徒らに枝葉末節に溺り國家の最も要求する事と多大の懸隔を見ることの儘に荏苒推移せんか國威を内外に失墜するところ甚大なるを感ず………………

トノ進言書ヲ作成首相並貴衆兩院議長ニ手交シ尚同二十六日ニハ　貴衆兩院議員に告ぐ

ト題シ大要「空議徒論ノ反復ヲ一擲シ審議ノ迅速ヲ圖リ速カニ議事ヲ完了之カ實行ヲ期シ戰時議會タルノ眞面目ヲ發揮スベシ」トスル主旨ヲ揭ゲタル檄文ヲ作成樞密顧問官、貴衆兩院議員、翼賛會、翼政會、友誼團体等ニ郵送セリ

ヲ吉田總裁ハ政界上層部ヲ訪問進言スル等頗ル注目スベキ行動アリ

三、十八年度全國大會及其ノ後ノ動向

同月八、九兩日赤坂三會堂ニ於テ全國大會ヲ開催セルガ議案「眞實運動ノ官僚化並野望的爲政者絶滅ノ件」以下十四項目ニ亘ル注目スベキ議案ヲ可決、尚青年隊々則變更、總局規定創定等アリ更ニ

一、我等は昭和十八年度の非常重大性を確認し内外攘夷の一道に捨身殉難せんことを期す

一、我等は純粹維新道の高揚を祈念し似て非なる偽裝便乘派の全面否定を期す

一、我等は歸一至道の大義に格遵し天下取り思想を根底とせる俗流革新派の掃滅を期す

トノ決議ヲ行ヒ九日ニハ牛込淀橋兩公會堂ニ於テ「米英擊滅世界一新大演說會」ヲ開催氣勢ヲ揚ゲタリ

而シテ同十四日ニハ本會ハ唯一ノ民間草莽ノ勢力トシテ自負スル

以上先ヅ理論ヨリモ實踐ナリトシ

一、全國大會報告演説會又ハ座談會開催並大會決議事項即時實踐ノ件

ト通スル指令ヲ發シ全國各分營ニ於テハ直チニ「全國大會報告演説會又ハ報告座談會」ヲ開催シ大會ノ眞義ヲ全會員及地方民ニ徹底セシムベシ尚大會決定ノ十四議案ニ就イテハ各々其ノ地方情勢ニ應ジ適宜運動ヲ展開セラルベシト即時實踐ニ移ルベキヲ促シ又同十八日ニハ決議事項ノ實踐ハ結局組織強化ガ先決ナリトシ本年度大會第八號議案「地方組織強化ニ關スル件」ノ實行方法トシテ

1 縣單位ニ講習會、錬成會ヲ開クコト

2 縱ト横トノ關係ヲ有機的ナラシムベク地方總局ヲ設置スルコト

3 分營ニ塾ヲ創設シ思想ト組織ノ強化ヲ圖ルコト

等八項目ニ亘ル具体案ヲ提示セル指令ヲ發シ組織強化ニ努力スベキヲ激勵スル所アリ將來ニ於ケル活動注目スベキモノアリ

やまとむすび年次大會

昭和七年七月佐々井一晁ヲ中心ニ「新日本國民同盟」ヲ結成シ機關紙「錦旗國民軍」ヲ發行セルガ其後名稱ヲ政治革新協議會、日本革新黨、大日本黨ト改稱シ來リタルガ昭和十七年七月二十日思想結社「やまとむすび」トシテ許可サレ機關紙「維新大日本」ヲ發行國運動ニ狂奔中ナリ

此ノ間佐々井ハ昭和十五年八月元湯淺內府暗殺事件ニ關係シ昭和十六年八月爆發物取締罰則違反トシテ禁錮一年六ケ月三年間執行猶豫ノ判決ヲ受ケタルモ客年三月恩赦ニヨリ刑ヲ免ゼラレ兵庫縣ヨリ衆議院議員ニ立候補シ當選セリ

第八十一議會ニ於テハ戰時刑事特別法改正案ニ反對的態度ヲ示シ三月三日ニハ國粹同盟外十三團體ト合流反對聲明文ヲ頒布シ農地國家管理案ヲ提出委員會ヲ通過セシメタリ

「やまとむすび」ハ其理想ヲ大東亞國內ニ宣布スルト共ニ世界皇化ヲ目標トスルモノナルガ其第一步トシテ中國ニ進出スルヲ要ストナ

シ昭和十七年十一月中華民國秘密結社江縉首領章某一ト運動合作ノ提携成リ連絡ヲ計リツヽアリシガ本年五月中旬佐々井一晃ハ中國ヲ訪問運動ノ具体化ヲ計畫スル豫定ナリ
千次大會ハ昭和十八年四月三日赤坂三會堂ニ開催、代議員二百名外一般會員共合計約五〇〇名參集シ同志的結束ノ強化ト對外示威ヲ行ヒタルガ其席上顧問佐々井信太郎、木村尚一、理事長田中清大佐ノ外常任理事五名、理事十六名、中央幹事七十五名、中央委員七十四名ノ役員ヲ選任新陣容ヲ確立其主張スルトコロハ
「我等ノ陣容ハ現狀維持勢力ニ對スル抗爭決戰ヲ意識シ示威的存在デアラネバナラヌ我等ノ行事夫レ自体一ツノ抗爭デアリ決戰ナリ
敵ハ我等ノ組織ヲ恐ル、ハ最後ノ場合ニ發揮スル力ガ有ルナラデ將來盟旗千本支部一千ヲ目標トシテ絕叫セネバナラヌ」
トテ秩序アル組織ト堅キ團結ヲ計リタリ・

やまとむすびハ表面現内閣ヲ支持スルト稱スルモ其支持ハ政府ノ方針ガ皇國日本ノ眞姿ヲ顯現シ大東亞十億ノ盟主トシテ發展スベキ理念ノ下ニ活動スルヤ否ヤヲ監視シ之ニ合致スル場合ハ支持スルモ反スル場合ハ政府ヲ啓蒙鞭撻シ一致點ニ導クモノナリトスルモノニテ其運動ニ對シテハ今後相當注意ヲ要スルモノト認メラル

(二)急進分子ノ動向

1.大東塾關係

影山塾長ノ年來ノ主張タル
神政復古、思想維新ノ確立勤皇村建設運動等ヲ眼目トシテ

塾監　長谷川幸男

同人　武藤包州　下村威

玉井光一　藤原仁

等ノ七、五事件關係者ヲ中心幹部トシテ捨身奉皇ノ急進青年ノ養成ニ努力シ來リ昭和十六年十二月大東亞戰勃發ノ直後塾長影山正治ハ

「對英米戰の大詔を拜して擧國の同憂同志に愬ふ」

ト題スル聲明書ヲ發表シ内容不穩ノ廉ニヨリ新聞紙法違反トシテ檢擧セラレ、容年三月東京區裁判所ニ於テ關係者長谷川幸男ト共ニ各々禁錮三月二年間執行猶豫ノ判決言渡ヲ受ケ尚又本名等ノ所謂七五事件關係ニ就テハ容年三月三十日東京刑事地方裁判所ニ於テ

影山正治　禁錮五年

長谷川幸男　禁錮　三年

玉井光一　〃　二年

武藤包洲　〃　二年

下村威　〃　二年

等夫々判決言渡シヲ受ケテ服罪セリ、其後專ラ塾ノ擴大強化ヲ策シ

神社參拜、行軍、武道、講談

等ヲ日課トシテ最モ嚴格ナル塾規ノ下ニ急進青年ノ養成ニ努力目下平常二十五六名ノ塾員ヲ擁シ顧問吉田益三、同三浦義一等ノ物心兩面ニ亘ル援助ノ下ニ塾經營狀態モ順調ニアリ

塾ノ擴大強化ノ方法トシテ更ニ塾內ニ於ケル「五の日會」並ニ塾長影山正治ノ主宰スル文化團体「新國學協會」ひむがし歌ノ會等ヲ月例的ニ開催シ

更ニ、大日本一新會トノ緊密ナル連繫ノ下ニ本年二月末ヨリ

新潟、大阪、廣島、京都、埼玉、九州

地區等ニ開催セラレタル同會幹部講習會ニ際シテハ塾長以下ノ幹部諸

師トシテ出席シ塾精神ノ昂揚ニ努メ、又一方機關紙「大孝」及新國學協會發行ノ雜誌「ひむがし」等ヲ通シ塾長ノ念願タル勤皇村建設運動ノ發展ニ努メツヽアリ

然シテ四月二十九日天長ノ佳節ニ當リ前記塾關係ノ事件關係者ハ何レモ特別恩赦ノ恩典ニ浴シタルガ本名等ハ所謂劍ノ精神ニ基ク直接行動ニ依ル昭和維新斷行ヲ唯一ノ御奉皇ナリトノ信念ノ下ニ塾生同志ノ錬磨ヲ爲シツヽアルモノト認メラルヽモノニシテ之レガ動向ニ關シテハ特ニ深甚ナル注意ノ下ニ視察內偵ヲ進メ動靜注視シ萬全ヲ期シタリ

2 勤皇まことむすび運動關係

天野辰夫直轄ノ下ニ安田銕之助、松永材、片岡駿、中村武等ノ中堅幹部ヲ擁シ居ルガ

昭和十六年八月發生セル平沼國務相狙擊事件ノ衝擊ニ依リ其後ニ於ケル情勢稍不振ニ傾キタルモ、昨年十月頃ヨリ相當活潑ナル動向ヲ示シ

茨城、岡山、京都、香川等所在ノ各地方事務局ヲ中央事務局トノ連絡ヲ密ニシ地方青年ノ獲得ヲ圖リ、更ニ鹿子木員信ノ主宰スル皇國學園等トノ連繋ノ下ニ學生層ノ獲得ヲ策シ又主幹者安田銕之助及松永材等ノ幹部ハ各地ヲ往復シテ直接指導ニ當ル等盡勢擴張ニ奔走シ來リ、更ニ本年二月ニ入リ急進青年養成ノ目的ノ下ニ

明治天皇聖蹟櫻ケ丘

ニ於テ禊錬成會開催ヲ圖リタルガ偶々議會上提中ノ戰刑法改正反對ニ基ク、天野辰夫等ノ新聞紙法違反事件ヲ惹起スルニ及ビ錬成會中止ノ止ムナキニ至レリ

最高指導者天野辰夫ハ昨年末頃ヨリ維新公論紙上ヲ以テ時局問題ヲ擧ゲ漸次反政府的態度ヲ示シ來リタルガ、特ニ議會提案中ニ至リタル

戰時刑法改正法案

ニ對シテハ、幕府的武斷專制法案ナリトシテ、極端ナル反對意嚮ヲ示シ來リタル處、右反對論文ヲ執筆シ

三月七日付、帝國新報及維新公論三月號紙上ニ該論文ヲ掲載セシメタルニヨリ、天野其他關係者ハ新聞紙法違反被疑者トシテ、検擧取調ノ結果何レモ言論出版集會結社等臨時取締法違反トシテ起訴セラレ本月十九日東京區裁判所ニ於テ之レガ公判開廷ノ豫定ニアリ平沼國務相狙撃事件ニヨリ目下東京拘置所ニ入所中ノ中堅幹部、片岡、中村、西山等ニ對シテハ昨年十月十二日豫審終結決定ヲ見ルニ至リ即日公判ニ回付サレ五月三日之レガ準備公判ヲ開廷ノ豫定ニアリ

本團体ノ動靜以上ノ如クニシテ大東亜戰ノ影響ニ依リ目下言論戰ニノミ重點ヲ置クヤニ認メラルヽモ、地方會員中ニハ最モ純眞ナル急進青年多ク且ツ反政府的態度或ハ平沼勢力ニ對スル反感等ノ空氣濃厚ニシテ曾ツテノ經緯等ニ鑑ミ相當嚴密ナル視察警戒ヲ爲シツヽアリ

3 ひもろぎ塾關係

血盟團事件盟主井上日昭主宰ノ下ニ五、一五及二二六事件等ノ同志ヲ傘下ニ最モ強固ナル精神的結合ヲ有シ

茨城、群馬、千葉、山形、島根

所在ノひもろぎ塾ヲ主体トシテ急進青年層ニ於ケル所謂魂ト魂ノ結合ニ依ル、血盟的ナル結集ヲ策シツヽアリ

更ニ維新運動強化方途トシテ

前田虎雄　本間憲一郎

德田宗一郎　西郷隆秀

頭山秀三　揖運一甫

等ト結ビ最近ニ於テハ維新陣營ノ内部結合強化ヲ策シ客年來ヨリ相當活潑ナル動向ヲ示シ來レリ

然シテ盟主日昭ハ目下翼壯關係講演會等ニ出席シ地方有志ノ育成ニ努メ又

三上卓　四元義隆

等ノ幹部ニ於テモ各地散在ノ塾ヲ主体トシテ、地方青年ノ指導育成ニ奔走シツヽアリ

古内栄司　綿引正三

本間憲一郎ハ客年半ヨリ茨城縣下ヲ唯一ノ地盤トシテ一縣勤皇運動ノ強化ヲ目標ニ熾烈ナル運動ヲ展開シ更ニ本年三月一日ヲ以テ民間情報機關「大東亞協會」ヲ創立シ自ラ會長トナリ組織網ノ擴大強化ヲ策シツヽアリ、

前田虎雄ハ市川市所在ノひもろぎ塾ヲ主宰シ同塾ヲ中心ニ魂ノ結ビニ依ル青年ノ結集ヲ圖リ對時局問題ニ就テハ稍靜觀的ナルモ

現時局下ニ在リテハ宜數ク公論ヲ興起シ所謂民ノ聲ニ依ル社會戰線ノ確立ヲ期シ以テ眞ノ翼賛体制ヲ確立セザレバ聖戰ノ目的ヲ達シ得ズトシテ昨年來ヨリ相當活潑ナル動向ヲ示シ來レリ

以上本國体關係ハ對時局ニ關シテハ稍靜觀的態度ヲ示シツヽアルモ、結集力強固ニシテ相當注意ヲ要スベキモノナルニ依リ特段ノ注意警戒ヲ為シツヽアリ

三、結社事務取扱状況

曩ニ言論、出版、集會、結社等臨時取締法ニ基キ結社存續許可申請ヲ提出セル團體ハ四三四（內支部一九六）政事結社ヨリ思想結社ニ變更セルモノ五、新規出願一五團体アリ

之等團体中昭和十七年六月以前ニ於テハ許可處分アリタル團体ナク取下願アリタルモノ三四團体、不許可ノモノ立憲養正會外三六團体（他ニ支部六一）ニシテ其後ニ於ケル状況ハ

許可　九一團体（他ニ支部三八團体）
取下願アリタルモノ　二七團体
不許可處分ノモノ　一團体
目下進達中ニシテ處分未決ノモノ　二一團体
檢討中ノモノニシテ存續申請ノモノ　四一團体
新規出願　一五團体
（內許可六、檢討中九團体）

ニシテ取扱結社名並主幹者氏名等左記ノ通リ

記

(1) 許可處分アリタル團体

第一回（昭和十七年七月二十日許可）

結社名	主幹者氏名
國際反共聯盟	井田磐楠
原理日本社	蓑田胸喜
國体擁護聯合會	人江種矩
あけぼの發行所	小池孝二
皇國學園	鹿子木員信
皇道社	今泉定助
大和倶楽部	狩野敏
大化會	岩田富美夫
則天塾	根本崁
鶴鳴荘	摺建一甫

結社名	主幹者氏名
大東亞青年同盟	松木良勝
瑞穂倶楽部	伊達彌作
日本文化宣揚會	菅波三郎
直心道場	大森有聲
古事記研究會	岩田一
八光會	山本英輔
大日本勤皇會	武井定光
天行會	頭山秀三
皇道實貫青年聯盟	毛呂清曦
聖戰明徴國民運動東京本部	摺建一甫

明倫會聯合會	石崎仲三郎	戰時体制强行聯盟	池田弘
國粹同盟	笹川良一	大日本赤誠會	橋本欣五郎
天關打開期成會	滿井佐吉	大日本皇道會	赤尾敏
大亞細亞建設社	笠木良明	やまとむすび	佐々井一晁
大日本一新會	吉田益三	東方同志會	中野正剛
愛國社	岩田愛之助	大日本農道協會	吉田[illegible]
大日本運動本部	間牛凡夫	皇運扶翼運動	八角三郎
大日本昭和聯盟本部	守屋榮天	愛國同志會	大島高精

第二回（昭和十七年九月十九日許可）

結社名	主幹者氏名	結社名	主幹者氏名
祭政一致翼賛協會	一條實孝	勤王聯盟	鈴木勇
聖日本學會	田尻軍人	勤皇烈士顯彰聯合會	柳町茂道
對蘇同志會	上原平太郎	皇民實踐協議會	丹羽五郎

第三回（昭和十七年十二月七日許可）

結社名	主幹者氏名	結社名	主幹者氏名
皇民團	峰村英一郎	萬民翼賛体制確立聯盟	内田正已
東京創生會	中野賢次郎	大命會	長岡理泉
皇道經濟研究所	神保幸三郎	維新同盟	竹本信一
維新烈士顯彰赤坂會	小崎一誠		

第四回（昭和十七年十二月二十三日許可）

結社名	主幹者氏名	結社名	主幹者氏名
新日本同志會	高廣三郎	使命會	高見乙通
祖道會	山中伊平	みたみ會	渡邊金藏
葉隱協會	原田敬一	復古派皇道齊修會	鬼倉重次郎
皇道會	矢島芳郎	大日本歸旗會	本多癸室
皇國同志會	高山昇		

第五回（昭和十八年一月八日許可）

結社名	主幹者氏名	結社名	主幹者氏名
勤皇まことむすび	安田銕之助	大東塾	影山正治
維新公論社	市毛康逢	聖戦貫徹同盟	奥戸足百
日本塾	高松敏雄	生成塾	佐橋尚政
南町塾	宅野清征	御楯塾	白井為雄
天地會	大和茂樹	維新前衛隊	瀧澤利量
日本乃姿顯彰會	河野恒吉	草鞋會	山崎榮一
葦牙寮	幡掛正浩	明朗會	日比和一

第六回（昭和十八年一月二十三日許可）

結社名	主幹者氏名	結社名	主幹者氏名
思想國防協會	松井石根	東亜文化圏の會	藤村又彦
東亜問題研究所	古賀 斌	勤皇維新同盟	石渡 實
風雲倶楽部	千々波敬太郎	事變處理研究會	川原信一郎

地湧日本社	内田剛藏	皇民同志會	渡邊昇
東亞細亞社	山口進午	東亞同志會	宇佐見元章
惟神顯修會	長井吉五郎	索雲莊	橋本徹馬

第七回（昭和十八年一月二十三日許可）

結社名	主幹者氏名
政教塾	皆川三國

第八回（昭和十八年三月十七日許可）

結社名	主幹者氏名	結社名	主幹者氏名
日本思想研究會	石井忠一	維新運動社	永富以德
國際政經學會	增田正雄	大日本勤皇同志會	藏田馨
皇國運動同志會	伊藤力甫	聖戰文化奉公會	石井虎雄

支部 三八團体（昭和十八年三月二十六日許可）

(2) 不許可處分團体

皇國日本運動　小田榮

(ハ) 進達中ノ團体

アジア青年社　祖國會　黒龍會
南方會　南進勤皇會　聖戰同盟
東亞思想經濟研究所　青年亞細亞同盟　大東亞黎明會
啓明社　南鵬會　興南協會
南方圏研究會　興亞倶楽部　國防研究會
明德會　奉仕經濟團　大日本護國青年會
日本南方協會　日本經濟同盟　戰時對策研究會

(ニ) 檢討中ノモノ

東亞聯盟協會　精神科學研究所　日本力會
至誠會　時務研究會　無名士倶楽部

大日本協會	政教社	東亞協會
農村文化研究會	辛未同志會	東亞新秩序研究會
拓南協會	大日本同志會	對支同志會
維新青年前衞隊	大孝[illegible]樂會	國際日本協會
スメラ學塾	日本精神道場維新塾	不二倶樂部
東南亞細亞民族同盟	神祇官復興促進聯盟	江東明倫會
皇政協力會	皇道婦人聯合會	皇道宣揚新聞雜誌聯盟
士風會	關東國粹會	亞細亞民族問題研究所
海洋國策研究會	時局研究會	大日本國粹會東京本部
興亞運動同志會	帝大肅正期成同盟	大東亞共榮圈講究會
勤皇挺身隊	日本國體學會	維新大道宣揚會
大日本忠正會	[illegible]皇明倫會	

(ロ) 以下願ヲナシタル團體

大日本經國聯盟	全國一体主義日本協同黨	文化維新同盟
日本政經研究會	大八洲會	小塚原回向院烈士遺蹟保存會
山縣會	藤森天山彰頌會	國耀會
川連義路先生遺勲顕彰會	雲濱會	晴虎會
公論社	振東塾	松陰子講
大日本生産黨	大東亜青年隊	北方會
大日本敬神會	海洋調査室	日本興國同盟
小塚原烈士常行會	翼賛壯	洋々會
大日本護國會	護國同志會	

(6) 新規出願團体

結社名	主幹者氏名	結社名	主幹者氏名
葦牙寮	幡掛正浩	紫雲荘	橋本徹馬
國際政經學會	增田正雄	大日本勤皇同志會	藏田[illegible]
皇國運動同盟	伊藤力甫	聖戦文化奉公會	石井虎雄

[illegible]建國[illegible]研究會　安山實　神代文化研究會　小寺小次郎

南方[illegible]公隊　橋本榮三郎　八紘[illegible]會　松井[illegible]夫

神道[illegible]會　町田[illegible]　大日本皇國文化協會　若倉[illegible]

[illegible]弘塾　矢澤明　松左[illegible]塾　向井定利

神[illegible]大東亞協會　田村健一

四 宗教運動ノ視察取締

従來宗教團体ハ兎角教權或ハ財産等ヲ繞リテノ所謂内部紛争等ニ沒頭シタル観アリタル大東亞戰爭勃發後ニ於テハ之等ノ勢力爭等ヲ内包シツツモ概ネ時局ニ順應シ大部分ハ政府ノ聖戰遂行ニ積極的協力シツツアルガ一部ニハ聖戰ノ意義ヲ解セズ徒ラニ戰爭目的ニ關シ獨善的解釋ヲ下シ或ハ過去ノ英米依存的心理ヲ清算シ得ズ殊更ニ戰爭遂行ヲ阻害スルガ如キ言動ヲ弄スルモノアリテ銃後治安保持上注意ヲ要スルモノアルヲ以テ之等宗教團体ニ對スル視察内偵ヲ嚴ニシ之ガ取締ノ完璧ヲ期シタリ之ガ取締状況ヲ擧グレバ左ノ如シ

一 神道關係

(一) 扶桑教敬神福徳會ノ取締

(1) 被檢擧者ノ本籍、住所、職業、氏名、年齢

本籍 東京市本郷區駒込西片町一〇 戸主
住所 同 市小石川區東青柳町二三
宗教結社扶桑教敬神福徳會

會長 扶桑教權大講義 松島和人

當 三十九年

(2) 檢擧年月日

昭和十七年九月七日

(3) 事犯ノ概要

本名ハ元簡易保險局書記タリシガ昭和十三年六月父死亡後[illegible]辭シ扶桑教ニ入信權大講義ノ教職ヲ得自ラ宗教結社扶桑教敬神福徳會ナルモノヲ創設セルモ信徒寡少ニシテ結社ノ維持困難[illegible]陷リシ爲メ昭和十五年一月以降營利ノ目的ヲ以テ健康相談部ヲ開設信者ノ病氣相談ニ對シ自己經營ニ係ル理化學研究所ノ賣藥ヲ買付ケツツアリシガ之亦實績擧ガラザル爲メ昭和十六年二月以來「大黒惠比壽像」ヲ頒布シ初穗料名儀ニ依リ利益ヲ得ベク企圖シ屑屋ヨリ購入セル古葉書ニ依リ宛先ヲ全國各地ニ求メ斯クシテ一個八錢ノ小神像（御守ト稱ス）ヲ夫々郵送シ初穗料トシテ一個一圓乃至三圓ヲ利得シ且爾後之ヲ會員トシ教會ノ擴大

ヲ計リ尚之ガ宣傳方法トシテ「福の神が飛び込んで運の開けた話」外十數種ノ印刷物ヲ作成同封シ神像約五千体印刷物約二万枚ヲ頒布シ昭和十六年二月以降約二千五百圓ヲ利得セリ

(4) 處理顛末

昭和十七年九月十日松島和人ヲ任意出頭セシメ嚴諭ノ上卽日事業ヲ中止シ結社ヲ閉鎖解散シ正業ニ就クベク誓約書ヲ提出セシメタリ

(三) 倫道協會ノ取締

(1) 被檢擧者ノ本籍、住所、職業、氏名、年齡

本籍　山形縣西置賜郡長井町大字小出八四七

住所　東京市世田谷區羽根木町一六九五

宗教結社倫道協會

會長　横山三郎

當六十年

(2) 檢擧年月日

昭和十七年十月十四日

昭和十七年十月十四日

(3)事犯ノ概要

本名ハ從來何等宗教的教育竝經驗ナキモノナルガ大正元年奉齋神ヲ明治天皇、教義ヲ日本聖典トシ日乃本教ト稱スル結社ヲ創立シ以テ明治天皇ノ聖諭訓範ヲ奉戴シ承詔必謹ノ誠心ヲ國民ニ徹底セシムルナリトセルモ創立當時ヨリ現在ニ至ル迄ノ間ニ於テ信仰ノ絶對對象タルベキ奉齋神ヲ天照大神、神武大神、明治大神、照憲皇太后等ト數度ニ渉リ變更シ教會ノ名稱モ亦之ト同様改稱ヲ敢テシ恰モ畏モ　天皇ヲ利用シ奉ルガ如キ實相ヲ呈シ其ノ運動ヲ爲スニ當リテモ異様ノ容裝ヲ爲シ、無許可ニテ財物ヲ募集シ或ハ私邸内ニ寺院ニ紛ハシキ殿堂ヲ設備スル等無軌道的行爲ヲ續行シ其ノ都度注意禁止ヲ受クルヤ職業迫害ナリトシテ事毎ニ反抗的態度ヲ持シ特ニ大東亞戰爭勃發スルヤ戰死者ノ遺骨ヲ奉迎スルト稱シ其ノ設備ナクシテ遺骨ヲ保管シ又ハ國家ニ代リテ戰死者慰靈祭ヲ執行スルモノナリトシ或ハ朝日、大阪

每日、東京日日、其ノ他全國ノ著名新聞十數紙ニ廣告シ社會的著名人士ノ死亡廣告ヲ基礎トシ自宅ニ形式的祭檀ヲ設ケ之ヲ寫眞ニ撮影印行シ宣傳ノ目的ヲ以テ之ヲ送付會員獲得ノ資料採取ヲ爲シタルモノニシテ昭和十七年十月以降合計千五百八ノ會員ヲ執行更ニ費用三百圓ヲ投ジテ日本聖典、倫道教書其ノ他數種ノ印刷物ヲ作成送付シ會員五百名ト約一千圓ノ利益ヲ得タルモノナリ

(4) 處理顚末

昭和十七年十月十四日限リ本協會ヲ解散シ爾後謹愼殘務整理ニ專從スベキ誓約書ヲ徵シ之ヲ處理セリ

(三) 時局利用宗敎結社取締

(1) 被檢擧者ノ本籍、住所、職業、氏名、年齡

本籍 東京市板橋區板橋町二丁目三六六

住所 右 同

理容術營業 芳賀聖經事

宗教結社神命大日本教

教會長　芳　賀　静　一

當　四十九年

(2) 檢擧年月日

昭和十七年十二月十八日

(3) 事犯ノ概要

本名ハ大正十二年以降理容術營業ノ傍ラ神道ヲ研究獨創ノ教義ヲ設ケ昭和十五年十一月神命大日本教ナル宗教結社ヲ創設同十七年十一月一日付無屆ニテ機關紙「神命」ヲ創刊シ同十二月一日付第二號ニハ

天皇を信仰すればどんな幸福になるか

トノ題下ニ　天皇ノ十德ヲ列擧シ然モ其ノ信仰ト實踐ニ就テノ神命ハ本教ニ降下セリト宣傳シテ　天皇ヲ利用シ奉リ（昭和十七年十二月十七日發禁處分）其ノ他奉齋神ト異ナル神名ノ神札ヲ妄リニ頒布シ尚神秘性ヲ加ヘントシテ「宮殿」ナル字句ヲ亂

用信徒ノ獲得ニ狂奔セルガ本名ハ一面之ヲ以テ政治運動ニモ利
用セント企圖セルモノナリ

(4) 處理顛末

本結社ヲ解散スルコトトシ誓約書ヲ徴シ結了セリ

(四) 御嶽教大祖本道教會取締

(1) 被檢擧者ノ本籍、住所、職業、氏名、年齢

本籍　愛媛縣新居郡神郷村大字郷字臼井郷九九八

戸主　伊勢太　弟

住所　東京市荒川區尾久町四ノ一五七八

御嶽教大祖本道教會

主管者代理御嶽教中教正　山本　勘一

當　四十五年

(2) 檢擧年月日

昭和十八年二月十八日

(3) 事犯ノ概要

本名ハ昭和二年ヨリ御嶽教大祖本道教會ヲ開設布教中ナリシガ大東亜戰爭勃發ト共ニ人的資源ノ重要性ヲ强調セラルルニ至リタルニ着眼シ子供ノ母体内ニ在ル中ニ胞衣祭ヲ執行スルコトニヨリ諸々ノ不淨ト災難ヲ除去スルコトヲ得ベク吾教會ニ於テハ一般人ノ爲ニ胞衣祭ヲ執行スルモノナリト稱シ昭和十六年十一月以來計畫ヲ爲シ昭和十七年一月ヨリ外交員二名ヲ使用シテ京京市内一般家庭ヲ訪問セシメテ誕辰胞衣祭祈禱ヲ勸誘シ申ヨリ一人ニ對シ金五十錢ノ玉串料ト稱スル費用ヲ徴收山本ト外交員ト之ヲ折半シ來リタルモノニテ昭和十七年一月以降外交員一人一ケ月約百三十圓乃至二百五十圓ノ集金アリ山本ハ居乍ラニシテ月收三百圓餘ヲ取得來リタルモノナリ

(4) 處理顛末

教會ヲ解散爾後謹愼スベキ旨ノ誓約書ヲ提出セルニヨリ特ニ説諭處分ニ止メタルガ二月十九日教師ノ辭職手續ヲ履行セリ

一 佛教關係

㈠曹洞宗龍海寺住職ノ詐欺横領事件

淀橋區上落合一ノ四八二
曹洞宗龍海寺住職　占業
龍海事　小原唯雄
當四十一年

1. 檢擧
昭和十七年四月二十三日

2. 送局（東京區裁判所檢事局）
昭和十七年七月三日

3. 起訴、犯罪
㈠詐欺　騙取金五十一萬九千五百圓
㈡横領　取得金二萬五千六百圓

4. 第一審判決（昭和十八年二月二十六日）
㈠横領罪懲役一年（執行猶豫二年）
㈡詐欺ノ點ハ無罪

但シ金員ハ寄附ニ非ズシテ出資ナリト判示セラル

5. 控訴

(一) 被告小原唯雄ハ三月五日不服ノ為メ控訴ス

(二) 檢事モ附帶控訴セリ

6. 内容

横領

被害者星野正一ヨリ信仰ヲ利用シ五十一萬九千五百圓ヲ詐取シタル外更ニ小原唯雄ハ昭和十四年九月一日頃其ノ信徒前記星野正一（當時三十二年）ガ支那事變ノ為メ應召出征スルニ際シ同人ヨリ同人所有ノ淀橋區下落合三丁目一七七二番地所在宅地及家屋（價格八萬圓位）ヲ他ニ賣却シ該賣得金ヲ以テ同人ノ麹町區内幸町日本不動產株式會社外一名ニ對スル三口元利金合計約五萬圓ノ債務ヲ返濟セラレ度キ旨依頼ヲ受ケタルニ昭和十五年四月十二日頃右依頼ニ基キ該宅地及家屋ヲ六萬五千圓ニテ他ヘ賣却シ右金員ヲ保管中其頃其ノ内約

金二萬五千二百圓ヲ擅ニ同市内ニ於テ自己ノ用途ニ費消シテ横領シタルモノナリ

二、基督教關係

(一)きよめ教會等治安維持法違反事件ノ捜査檢擧

1. 淀橋區柏木四ノ九四四

日本聖教會(日本基督教團第六部)

主幹者 車田秋次

教會總數 一九〇ケ所(内傳道所四二)

内管下 三四ケ所

教師總數 二七八名

内管下 六四名

外ニ日曜學校教師全國約五〇〇〇名

信者總數 約二五、〇〇〇名

内管下 約一七、〇〇〇名

2. 京橋區京橋一ノ三 京一ビル四階

きよめ教會（日本基督教團第九部）　主幹者　齋藤源八

教會總數　一〇五ケ所

內管下　一四ケ所

教師總數　一五〇名

內管下　二八名

信者總數　約一五、〇〇〇名

內管下　約二、〇〇〇名

3. 淀橋區柏木三ノ三九一

東洋宣教會きよめ教會　主幹者　尾崎喬一

支部　朝鮮　一

教師總數　二二名

內管下　一五名

信者總數　約一、〇〇〇名

内管下　約　三〇〇名

通計教勢

信者總數　約三九、〇〇〇名

全基督教信者（内地）ノ約　一割

内管下　約　九、三〇〇名

管下全基督信者ノ　約　三割

4. 教義思想

右三教會ハ故中田重治ガ米國人宣教師シー、イー、カウマント協同シテ米國系資金ニヨリ明治三十四年四月一日東京市神田區表神保町十番地ニ開設セル中央福音傳道館ヲ母体トシテ大正六年十月三十日頃メソヂスト教會ノ流レヲ掬ム基督教新教ノ一派トシテ組織主宰シ、引續キ米國系資金（猶太資金ノ嫌疑濃厚）ニヨリ運營シ、次テ昭和三年五月頃ヨリ財政上自給制ヲ斷行スルニ至リタルタメ、後記不逞教理ヲ信奉宣傳スル條件トシテ米國人宣教師シー、イー、カウマン、イー、エー、キルボルン所

有名儀ニ係ル淀橋區柏木三丁目三百九十一番地所在ノ本部（同東洋宣教會きよめ教會本部）及牛込區矢來町百二十一番地ノ教會堂（現日本聖教會矢來通教會）ヲ使用ストノ教理指定ニ關スル協定ヲ結ビ、且之ヲ忠實ニ實行スベキ旨ヲ宣言シ、爾來宗教團体法ニ對シ反對決議ヲ行ヒ、或ハ神宮、宮城、神社ニ對シ奉リテモ之ガ遙拜參拜ヲ拒否スル最高方針ヲ決定シテ之ヲ實行シ、所屬信徒ヲ指導啓蒙スル等事每ニ政府ノ宗教政策ニ反對的態度ヲ堅持シツツ口答、或ハ各種刊行物等ヲ通ジ矢繼早ニ猶太依存ノ終末的情熱ヲ煽リ立テテ異狀ナル發展ヲ遂ゲタル東洋宣教會ホーリネス教會ガ昭和八年十月頃ヨリ同十一年十月十九日ニカケテきよめ教會ト日本聖教會ニ分裂シ、次デ昭和十五年五月東洋宣教會きよめ教會ガきよめ教會ヨリ分離結成セル教會ナルガ、右三教會ハ孰レモ一般ノ基督教ト著シク其ノ信仰思想ヲ異ニシ、其ノ基本教典タル舊新約聖書ヲ專ヲ猶太民族復興（猶太民族ノ世界支配）ノ觀點ヨリノミ歪曲解說シ、以テ不逞ニモ

天皇統治ノ廢止、現存國家ノ滅亡ト之ニ代ル猶太民族ノ世界支配ヲ内容トスル教理ヲ信奉シ、且廣ク之ヲ宣布シ、而モ活動極メテ活潑ナルノミナラズ斯ル思想信仰ニ基キ猶太復興運動者ニ送金シ、創始者中田重治ガパレンスチナノ獨逸系猶太人ローエン、スタインヨリ猶太國旗ノ寄贈ヲ受ケ或ハ在ハルビン極東シオン運動支部長A、T、カウフマント親交ヲ結ビ、或ハ猶太人ヲ慰問激勵スル等只管猶太建國ノ爲ニ狂奔シテ恰モ猶太民族ノ世界壟斷陰謀ノ一翼ヲ擔當スルカノ如キ實踐活動ヲ續ケ、又三一ノ神（聖書ニ說ク父ナル神エホバ、子ナル神基督、聖靈ノ神）ノミガ眞ノ活ケル神ニシテ此ノ神以外ニ神ナシトノ信仰理念ニ基キ我國民ノ傳統的尊信ノ中心ニアラセラルル伊勢神宮ノ御祭神天照大神ヲ以テ此ノ眞神ノ被造物ニ過ギザレバ祭祀、禮拜、祈願ノ對象ニナラズト做ス極メテ不敬不逞ナル觀念態度ヲ持シ來レルガ、近來我國一般基督教會等ガ大東亞戰爭ヲ契機トシテ舊來ノ外國依存關係ヲ清算離脫シ日本的基督教ヲ樹立スベク努

カシツツアルニ反シ、三教會共各自派ノ信仰態度ヲ以テ眞ニ國ニ仕フベキ態度ナリト自負シテ日本的基督教ヲ樹立セントスル一般基督教會ノ態度ヲ非難スル等獨善的盲信態度ヲ持シ、依然トシテ上來ノ信仰態度ヲ固執シテ舊來ノ思想信仰傳統等其ノ特異性ヲ飽迄保持スベク狂奔シ、或ハ大東亞戰爭ヲ通ジテ日本ヲ含ム地上國家ハ最後的滅亡ニ入リ之ニ代リ猶太民族ノ世界支配タル神ノ國千年王國ガ建設サレルト做シテ活潑ナル宣傳活動ヲ展開シ、就中きよめ教會、東洋宣教會、きよめ教會ノ二派ニ在リテハ日本帝國ハ猶太民族ノ世界支配完成タル神ノ國千年王國ノ實現ヲ見ル迄猶太民族ノ復興ヲ援助シ之ニ敵對スル諸國ヲ撃滅スベキ特殊使命ヲ有シ、而モ今次ノ大東亞戰爭ヲ通ジテ具現スルモノナレバ大東亞戰爭進展ノ結果ハ必然的ニ日、獨、伊樞軸間ニ分解作用ガ起リ最後ノ決戰ヲ行ヒ滅亡ニ入ルモノナル事ヲ力説宣傳シ、或ハ八紘爲宇ノ大理想ハ神ヨリ猶太民族ノミニ對シテ授與セラレタル特權ナルヲ以テ萬世一系ノ　天皇ノ御稜

感ニヨリテ眞ノ世界平和ガ到來スルト說ク事ハ神ヲ冒瀆スル虛誕ナリト力說スル反面敎會ノ運動ヲ巧ニ前記民族使命論ト混ネ合セテ敎會ハ八紘一宇達成運動ヲ行ヒツツアル日本化セル基督敎ナル事ヲ宣傳シ以テ國民大衆ヲ瞞着スル等國体ノ本義ヲ紊リ戰時下ノ銃後治安維持上寸時モ猶豫シ得ザル事實ヲ探知セリ、

5. 檢擧處理

依而之ガ措置ニ關シ內務司法兩當局ニ對シ稟申中ノ處、聖戰完遂國体明徵ノ建前ヨリ斯ル邪敎結社敎會ノ組織活動ヲ斷乎破碎スル事ニ決定シ治安維持法違反被疑事件トシテ昭和十七年六月二十六日未明ヲ期シ幹部級九十六名ニ對シ全國一齊檢擧ヲ斷行スル事トナリタルタメ當廳ニ於テハ三敎會ノ最高幹部二十七名ヲ檢擧シ夫々別表ノ通リ處理シタルガ本年一月大審院及司法省當局ニ於テ本件ニ關シ次ノ定義ヲ下セリ

6. 大審院定義

日本聖教會（日本基督教團第六部）
きよめ教會（日本基督教團第九部）
東洋宣教會きよめ教會（きよめ教會正統派）

共通定義

日本聖教會（きよめ教會、東洋宣教會きよめ教會）ハ基督教新教ノ一派ニシテ舊新約聖書ニ對スル故中田重治ノ獨特ノ解釋ヲ基礎トシテ構成セル教理ノ宣布ヲ目的トスル結社ニシテ該教理タルヤ父ナル神（エホバ）子ナル神（キリスト）及聖靈ナル神ノ所謂三位一体ノ神ハ宇宙萬物ヲ創造シ且永遠ニ之ガ支配ヲ爲ス唯一ノ活ケル神ニシテ、アダム、イブ以來惡魔ノ誘惑ニ陷リ神ヲ離レテ罪惡ヲ重ネ來リタル人類ヲシテ自ヲ悔悟シテ神ニ復歸セシムベク一面ニ於テ各種ノ試練ト祝福トヲ與フルト共ニ他面ニ於テ神ノ本意ナラザル惡魔ノ活躍ト人ニ依ル人ノ支配ヲ默認シ來リタルガ神ハ近キ將來ニ於テ「キリスト」ヲ空中ニ臨マセ義ノ審判ヲ開始シ戰爭其ノ他災厄ノ充滿セル所謂患難時代ヲ現出セシメタル後「キリスト」ヲ地上ニ再臨セシメテ我國ヲ含ム世界各國ノ統治權ヲ攝取セシメ「キリスト」ヲ統治

者、携擧セラレタル聖徒ヲ統治ニ參與スル王、神ノ選民ト稱スルイスラエル人ヲ支配階級ト爲ス千年王國ナル地上神ノ國ヲ建設シ次デ新天新地ト稱スル神ノ理想社會ヲ顯現スベキモノナリトシ、天皇統治ガ右千年王國ノ建設ニ際リテ廢止セラルベキモノナリト做ス國体ヲ否定スベキ内容ノモノナリ。

7. 結社禁止及敎會認可取消

而シテ右三敎會ニ對シテハ本年四月七日附ヲ以テ内務大臣ヨリ結社禁止處分アリ、同時ニ文部省當局ニ於テモ所屬敎會ニ對シ宗敎團体法第十六條ニヨリ敎會設立認可取消處分アリタルタメ目下關係者ニ對シ舊信仰ヨリ離脱轉信セシムベク說得中ナリ

一、日本聖教會（日本基督教團第六部）

住所	氏名 年齡	地位	送致月日	處分結果	備考
神田區小川町二丁目一番地	車田秋次 當五六年	會長 聖書學校長	昭和十八、三、十		昭和十八、[illegible] 東京拘置所移監
淀橋區柏木三丁目四三四番地	米田豐 當六〇年	前委員會委員 聖書學校教授 人事委員會委員	昭和十八、四、二三		昭和十八、四、[illegible] 警視廳移監
淀橋區柏木四丁目九四四番地	小原十三司 當五四年	前委員會委員 聖書學校教授 財務部長	昭和十八、三、十六		昭和十八、五、二一 東京拘置所移監
淺草區雷門一ノ二	一宮政吉 當六〇年	元委員會委員 前參與 聖書學校教授 懲戒委員	昭和十七、十二、十九	昭和十八、四、七 起訴	昭和十八、[illegible] 東京拘置所移監
豐島區椎名町四丁目二〇六九番地	山崎亭治 當六〇年	聖書學校教授 教育部長 人事委員會委員	昭和十八、三、三	昭和十八、四、七 起訴	昭和十八、四、二二 東京拘置所移監
杉並區高圓寺六ノ七二五番地	安部豐造 當五二年	總務部長 人事委員會委員	昭和十八、三、三一		昭和十八、四、[illegible] 東京拘置所移監

板橋區茂呂町三六二八番地聖書學校內	田二雄 當三八年	聖書學校教授 國外通信部長 財務部長	昭和十八、四、十三		
淺草區淺草橋三ノ三五番地聖泉教會內	泉田精一 當五二年	參與 人事委員會委員	昭和十八、三、十三	昭和十八、四、二三 起訴	昭和十 東京拘置所 移
葛飾區本田中原町十四番地	高橋俊三 當五四年	國內傳道部長 正教師	昭和十八、二、二七	昭和十八、四、七 起訴	昭和十八、三、二五 東京拘置所ニ移監
小石川區原町十二番地小石川泉教會內	佐藤雅文 當四七年	前財務局員 正教師	昭和十八、三、二十		
豐島區高田本町二丁目一、五四九番地	工藤光男 當三七年	朝鮮人教役者 人事主任	昭和十八、四、一		昭和十八、五、一 東京拘置所ニ移監
淀橋區百人町三ノ三五二番地	神山良雄 當四四年	出版部事務員 正教師	昭和十八、一、二九	昭和十八、四、七 起訴	昭和十八、三、二 東京拘置所ニ移監
下谷區坂本一ノ十二番地	福田約翰 當三三年	正教師	昭和十八、一、二九		昭和十八、二、十 東京拘置所ニ移監

住所	氏名 年齢	地位	送致月日	處分結果	備考
豐島區巣鴨三ノ二二八番地豐島巣鴨教會內	土屋顯一 當六一年	聖書學校教授	昭和十七、十二、十二	昭和十八、四、七 起訴	昭和十八、二、十六 東京拘置所ニ移監

「きよめ教會（日本基督教團第九部）」

住所	氏名 年齢	地位	送致月日	處分結果	備考
神戸市林田宮川町一丁目三番地ノ四神戸御船橋教會內	齋藤源八 當五六年	會長 教育部長	昭和十八、三、十二		[illegible]
東京府南多摩郡多摩村一宮四百二十番地	大江捨一 當四三年	總務部長 理事會理事	昭和十八、[illegible]、十一	昭和十八、四、七 起訴	昭和十八、三、十[illegible] 東京拘置所ニ移監
世田ヶ谷區太子堂二二一番地	条竹藏 當四七年	財務部長 理事會理事	昭和十七、十二、八		昭和十七、十二、二二 東京拘置所ニ移監
上海市北四川路七〇參號	森五郎 當五七年	元監督 中華部長 理事會理事	昭和十八、四、一		昭和十八、四、十五 東京拘置所ニ移監

住所	氏名	年齢	地位	送致月日	處分結果	備考
澁谷區穩田一丁目四番地	木田文治	當七六年	東京部長	昭和十七、十二、十二	昭和十八、四、七起訴	昭和十七、十二、二八東京拘置所ニ[illegible]
小石川區戸崎町六番地	安部藤夫	當四七年	教育部員 理事會理事	昭和十八、二、十八	昭和十八、四、三〇起訴	[illegible]東京拘置所[illegible]移
神田區小川町二ノ八	安藤仲市	當四三年	東京副部長			昭和十八、四、二[illegible]發病[illegible]診[illegible]ノ[illegible]日[illegible]

三、東洋宣教會きよめ教會

住所	氏名	年齢	地位	送致月日	處分結果	備考
淀橋區柏木三ノ三九一番地	尾崎喬一	當四二年	主幹 聖書學院長	昭和十八、三、十九		昭和十八、三、二七東京拘置所ニ移監
淀橋區柏木三ノ三九一番地聖書學院内	岡村謙一	當三五年	主幹代理 幹事會幹事 聖書學院教授	昭和十七、十二、三	昭和十八、四、七起訴	昭和十七、十二、二六東京拘置所ニ移監
淀橋區柏木三ノ三九一番地聖書學院内	中村丑夫	當三三年	幹事會幹事 聖書學院教授	昭和十八、三、十五	昭和十八、四、二起訴	昭和十八、四、二東京拘置所ニ移監

淀橋區柏木三ノ三九一番地 聖書學院內	鈴木良一 當三〇年	幹事會幹事 聖書學院教授	昭和十七、十二、四	昭和十八、四、七 起訴	昭和十八、二、二〇 東京拘置所ニ移監
淀橋區柏木三ノ三九一番地 聖書學院內	生田目俊造 當二八年	機關紙發行主任	昭和十八、一、三十		昭和十八、二、十九 東京拘置所ニ移監
千葉縣印旛郡佐倉町彌勒町九四番地	市川眞 當六六年	前會計	昭和十八、四、一		

五、警察署ニ對スル指導連絡

(一)指示、通牒

1 昭和十七年六月二十六日

きよめ教會等ノ檢擧ニ關スル件

標記教會ノ思想傾向ハ一般基督教國ノ動向トハ著シク其ノ趣ヲ異ニシ現下ノ聖戰目的ヲ恰モ猶太民族復興ノ戰ナルガ如ク歪曲シ然モ其ノ抱懷セル思想教說ハ肇國ノ歷史ヲ否定シ皇室竝神宮ノ尊嚴ヲ冒瀆スル言說ヲ流布スル等國体ノ本義ヲ紊リ戰時下ノ銃後治安維持上放置シ得ザル狀態ニアルヲ以テ聖戰完遂國体明徵ノ遂上リ之等反國体的思想教說ノ復滅ヲ期スルコト、ナリ、六月二十六日未明ヲ期シ全國一齊檢擧ヲ斷行方ノ指示

2 昭和十七年七月二十一日

〃　九月十九日

〃　十二月　七日

〃　十二月二十六日

昭和十八年一月二十七日
〃　三月二十六日
〃　四月　六日

結社許可（不許可）處分ニ關スル件

本通牒ハ曩ニ言論、出版、集會、結社等臨時取締法ニ基キ結社許可申請中ニアリタルモノニ對シ許可（不許可）處分アリタルニ付コレガ指導取締方ノモノ

3　昭和十七年八月一日

元大本教信者ニ對スル視察取締ニ關スル件

元皇道大本總本部教師昭和神聖會總裁出口王仁三郎等六名ニ對シ大阪控訴院ニ於テ有罪判決アリ元同教信者等ノ動靜視察方

4　昭和十七年十二月一日

甲例規廢止ノ件

昭和十三年九月九日付東方會及日本農民聯盟運動取締ニ關スル件ハ現下ノ實情ニ鑑ミ必要ナキヲ以テ之ヲ廢止ス

5 昭和十八年二月十五日

大日本赤誠會ノ動靜ニ關スル件

標記團体ニ在リテハ四月上旬、小石川區後楽園野球場ニ於テ皇國生産者全國大會ヲ開催ノ豫定ナルガ時局下其ノ影響スル所尠カラザルヲ以テ之ガ視察取締方ニ付

6 昭和十八年一月二十九日

塾道場等調査方ノ件

其ノ署管内ニ於ケル國家主義（類似團体）團体トシテ實質的ニ活動シアルモノヽ調査方

7 昭和十八年四月八日

戰時刑事特別法中改正法律ノ運用ニ關スル件

内務省警保局長ヨリ通牒ノ次第モアリ本改正法律ノ性質ニ鑑ミ之ガ運用ニ付テハ十分愼重ヲ期シ取締上萬遺算ナキヲ期セラレ度方

8 昭和十八年四月八日

きよめ教會等ノ結社禁止ニ伴フ取締方ノ件

日本基督教團第六部及九部ノ所屬教會、傳道所
東洋宣教會、きよめ教會
右各結社ニ對シ四月七日付内務大臣ヨリ結社禁止命令アリタルニ
付指導取締方ノモノ

(二)事務打合會々議開催

昭和十八年二月二十四日午前九時三十分ヨリ本廳第一會議室ニ於テ
特高主任ヲ召集事務打合會議開催
特高部長ノ訓示アリ、秋山課長ヨリ

(1)急進分子ノ取締ノ件
(2)視察圏擴大ニ關スル件
(3)言論取締ノ件

ニ付指示後事務打合ヲ爲シタリ

二

五

極秘

昭和十八年五月七日

革新運動情勢（二、三、四月分）

特高第二課

目次

一、革新陣營ノ一般動向……一
(1)時局ニ對スル盲動……一
(2)内閣改造ニ對スル意嚮……一〇
(3)特別特赦ニ對スル意嚮……一二
二、對外問題ニ對スル動向……一五
三、經濟問題ニ對スル動向……一八
四、第八十一議會ヲ繞リテノ革新陣營ノ動向……二二
五、里見岸雄排撃ヲ繞ル運動……三五
六、英靈公葬ヲ繞ル運動……三九
七、急進分子ノ動向……四二
八、事件關係……四八
九、其他主ナル運動取締……四九

一、革新陣營ノ一般動向

第八十一議會ヲ通ジ又內閣改造ヲ見テノ革新陣營ニ於ケル一般的動向ハ從前ト何等ノ變化ナク大勢ハ寧ロ惡化ノ傾向ヲ辿リツツアルモノト思ハレルガソレカト言ツテ彼等ガ今直ニ反政府的態度ヲ表面化スル如キハ大義名分上客觀情勢ガ之ヲ許サザルノ現況ナルヲ以ツテ表面的ニハ靜觀ノ態度ヲ示シツツ其ノ實不滿ヲ藏シ裏面ニ於テハ種々ナル策動ヲ爲シツツアルノ情勢ナルヲ以ツテ治安上必ズシモ樂觀ヲ許サザルノ現況デアル

次ニ二、三、四月中ニ於ケル重ナル客觀的事象ト之ニ對スル革新分子ノ言動ヲ擧ゲテ見ル

主ナル事象

二月　一日　レンネル島沖海戰ノ戰果發表
二月　二日　「和平反共建國」ノ黃色三角標識除去
二月　三日　スターリングラード地區ニ於ケル戰鬪停止發表
二月　九日　南太平洋ノ新作戰トシテ「ガダルカナル島」ヨリ轉進
二月　十日　イサベル島海戰ノ戰果發表

三月十五日　東條首相中華民國訪問發表
三月十八日　内閣顧問發表
三月卅一日　東條首相滿洲國訪問四月五日歸京
四月二十日　内閣改造
四月廿九日　政治革新ヲ企圖シタル處刑者ニ對シ特別特赦アリ

(1)時局ニ對スル言動

○中島今朝吾（皇道世界政治研究所）

現在ノ國内情勢ヲ見ルニ政治ニ於テハ　天皇機關說デアリ經濟ニ於テハ共産主義ノ統制經濟ヲヤツテ居ル現在ノ統制經濟ニ缺陷ガアルカラ益々闇ハ增大シ闇ヲヤラナイ者ハナイ

東條ヲ始メ政府ハ自分等ガ政治ヲヤツテ居ル樣ニ考ヘテ居ルノガ大間違デアル政治ハ　天皇ノ御親政デアル政府ハ　天皇ノ御威德御めぐみヲ下萬民ニ通ズ所謂下水清除ノ役目ヲスレバヨイノデアルノニ却ツテ之レヲ阻害シ財閥擁護ノ政治ヲヤツテ居ルノデアル三井其他財閥ノ財産ハユダヤノモノデアルカラ全部沒收シタ方ガヨイ

東條ハ施政方針演説ニ於テビルマハ今年一杯ニ獨立サセルトカ、ヒリツピンヲ獨立サセルトカ言フテ居ルガ議會演説モ甚ダシイモノデアル近衞ニシテモ屢々支那問題ニ就テ聲明シテ居ルガ一近衞ノ聲明ヲ支那ガ本當ニシナイノハ當然デアル獨立サセルトカ獨立サセナイトカ言フ事ハ　天皇陛下ノ御意思ニ依ルモノデ一總理ガ云々スベキ事デハナイ

現在革新陣營トカ愛國陣營トカ言フ連中ハ何レモ何處カラカ涙金ヲ貰ツテ來テ食フ爲メニ運動シテ居ル連中ガ多イ

軍人上リデモ革新家ト稱スルモノガ相當アルガ橋本欣五郎ナンテ奴ハ軍人ノ風上ニモ置ケナイ奴デアル彼ハ議會當時カラ野心家デアツタ日ノ丸ヲ裏返シタ樣ナ黨旗ヲ作ツテ居ルガ不都合ダ何故警視廳ハ取締ラナイノカ

現在ノ上層部指導者ト言ヘレル者ハ皆機關説的教育ヲ受ケテ居リユダヤノ思想ニ麻痺シテ居ルモノバカリデアル

翼賛ノ阿部信行ハ軍人トシテノ價値ノナイ者デアリ後藤文夫ハ二、二六事件ノ時三日モ隱レテ居タ奴デアル[illegible]神ガ大キク根本的ニ立直シ

ヲヤル時ガ來ルト思フ
東京都制案ガ目下議會ニ上提サレテ居ルガ之レハ歐洲ニ於テ失敗シタ案デアリ之レヲ實施セントスルコトハユダヤノ策動デアル
自分ガ憲兵司令官當時選擧ノ際無産黨ノ資金ノ出所ヲ調ベタ事ガアルガ殆ンド三井其他ノ財閥及マツダランプ等カラ出テ居タガ現在モ之等ノ處ニハユダヤ系カラ相當金ガ廻ツテ居ルノデハナイカト思フ

○影山正治談

此ノ頃政局ガ不安動搖ヲ來シテ居ル樣デアル、議會モ表面ハ平靜ノ樣ニ見ヘルガ底流ハ非常ニ強イ反東條的空氣ガ流レテ居ル樣デアルト言フノハ內外情勢ガ面白ク行カナイ、對外的ニハ獨逸ガ苦戰ニ居リ對米戰ノ戰局モ最近ハ日本側ニ有利ニ行カナイ、ソロモン方面ノ戰鬪デモ此處二、三日有利ナニユースガ齎ラサレタガ大体ニ於テ樂觀ヲ許サナイ狀態ノ樣デアル
更ニ國內的ニハ戰力增強ガ叫バレテ居ルニモ拘ラズ生産ハ非常ニ低下シテ來テ居ル、國ハ不可ナイト言ヒ乍ラ闇ガ横行スル、統制ガ甘ク行

カナイ、等々内外ノ情勢ハ餘リ良クナイ、結局新樣ナコトハ國民全体ノ責任デハアルガ倒閣運動ノ常トシテ新樣ナ場合ハ首相ノ遣リ方ガ悪イカラダト言フコトニナル、新樣ナ點カラ今日議會ノ内外ノ底流ニハ反東條内閣的ナ空氣ガ非常ニ强イ

一方軍ノ内部ニ於テハ石原莞爾並ニ其ノ一派ト東條系ノ對立ガ非常ニ激烈ヲ極メテ居ル樣デアル

石原サンノ考ヘハ今日日本ガ内外共ニ甘ク行カナイコトハ結局東條サンノ遣リ方ガ悪イカラダト言フニアルラシイ

對米英戰ニシテモ戰爭ソノモノニハ反對デハナイガ東條サンノ遣リ方ニハ徹底的ニ反對シテ居ル樣デアル

之ニ民間ノ所謂石原系ノ連中ガ加ハリ更ニコレニ近衞派ノ連中ガ協力シテ反東條的空氣ヲ煽ツテ居ル樣デアル、大體ニ於テ石原ノ東亞聯盟論ト近衞派ノ東亞協同体理論ハ思想的ニ共通性ガアリ近衞派ノ連中ハ再ビ近衞内閣ノ出現ヲ望ンデ居ルガ今日ノ狀勢カラソレハ不可能デアルシ結局石原ヲ推シテ東條内閣ヲ倒サウト言フイデアル樣デアル、此

ノ石原、近衛ノ橋渡ハ前書記官長ヲシタ富田氏ダト言フコトデアル、更ニ此ノ石原勢力ノ背後ニハ財閥ガアリ此ノ運動ハ非常ニ根强イモノガアルト私共ハ聞イテ居ル

一方東條サンノ側デモ之レニ對シテハツキリ戰ヲ宣シテ居ル樣ニ見ラレル、先日議會デ東條サンガ國內分裂ヲ來ス樣ナ言動ハ斷乎取締ルト言ハレタノモ石原派ニ對スル一ツノ宣戰ノ現レト思フ、又石原ノ參謀タル里見岸雄ノ爆擊運動モ里見排擊ニ依ツテ石原ヲ失脚セシメントスル運動ノ一ツノ現レト私共ハ見テ居ル、私共ハ此ノ暗鬪ヲ見ル時ニ兩者共理窟ハアルト思フ

其處デ私共ハ石原系デモナケレバ東條派デモナイ、勿論近衛一派ニハ反對デアルガ、東條サンヲ倒サウトモ石原サンヲ排擊シ樣トモ今日考ヘテ居ナイ、只戰爭下ニ政變ノアルト言フコトハ對外的ニ良クナイ、此ノ一點カラ政變ハナルベク避ケルベキダト思フ、其處デ東條サンニ對シテモツト態度ヲ鮮明ニシ確固タル信念ヲ持ツテ輔弼ノ大任ヲ果シテ貰ヒ度イコトデアル、之レハ反東條勢力ニ對抗スル爲メデハナク、

帷幄ノ大任ヲ果スト言フ一點カラ新クシテ貰ヒ度イ
處ガ東條サンノ遣リ方ヲ見テ居ルトドウモ確固タル信念ヲ缺イテ居ル
ノデハナイカト思ハレル、例ヘバ陸軍葬ヲ佛式デヤツタリ、或ハ議會
ヲ書廳ノ儀ニシ勝手ナコトヲ言ハシメテ置イタリ汪兆銘ノ來ラレタ折
ニ　陛下ニ對シ奉リ御會見ト言フコトヲ言ハシメタリ又昨日ノ新聞デ
見ルト國民政府ハ青天白日旗ノ上ニ付ケタル三角旗ヲトラセテ之レヲ承
認スル底意之レハ謀略トシテハ一應面白イガ日本トシテ斷ジテ許ス可キ
コトデハナイ

斯様ニ東條サンノ遣リ方ヲ見テ居ルト、東條サン自身ガ思想的雑明ヲ缺
イテ居ルノデハナイカト思ハレル、東條サンハ個人的ニ眞面目ダト私
共ハ見テ居ルガソレ丈ニ水戸黄門漫遊記的ナコトニ丈ニ終ラナイデモ
ツトモツト根本的ナコトヲ眞劍ニ考ヘ斷々呼トシテヤツテ貰ヒ度イト
思ツテ居ル　云々

○前田虎雄談

歐洲戰局ノ見透

獨軍モ遂ニ「ナポレオン」ノ轍ヲ踏ンデ仕舞タ、兵站線四百里ヲ守リ通ス事ハ獨逸トシテモ容易デナク今年ニナツテモ夏服デ居ルト云フ事デアレバ食糧モ困難トナリ遂ニ悲壯ナ昨今トナツタト思フ、何處ノ國ヲ問ハズ對ソ作戰ハ愼重ヲ要スルト考ヘラレル

然シソ聯トテレ市ヲ奪還シタトテ既ニ拂ツタ損害ハ實ニ大キク相當ノ痛手デ双方ノ疲弊ハ論外デアル、然ルニソ聯ガ此ノ際大犠牲ヲ拂ツテレ市ノ奪還ヲシタ事ハ用兵作戰上ノ重大任ヨリ更ニ一歩ノ裏ヲ我々ハ注視スベキダ、ソレハ兩國ガ死闘ヲ繰リ返シタ意圖ハ近ク休戰ヲ見越シ其ノ際ノ發言ヲ有利ナラシムル爲メノ地取リト私ハ觀測シテ居ル

一方獨英ノ戰局モ海戰ニ於ケル宣傳程ノモノトハ考ヘラレヌシ「ヘス」ノ暗躍ハ亦相當ノ力ヲ發揮シテ居ルト考ヘラレル又米國ノアフリカ進攻モコレハ米國ノ不手際デ泥沼ニ足ヲ突込ンダコトニナル

東條内閣ニ對スル見解

今議會ニ於ケル東條ノ氣ノ弱クナツタ事ハ國内態勢ガ確立スル見透シデハナク實ニ右ノ如キ戰局トレンネル島海戰ニ因テソロモン海域ニ於

テ互對互ノ勢力ニコギ付ケタ事ガ直チニ眞條ニ反映シ獨リ日本丈ケガ世界各國ニ比シ優勢ニナツタ事ヲ自覺セシメタ事デ此ノ後ハ米空軍ノ本土空襲ヲ撃破シサヘスレバ案外米國ノ戰爭意識ヲ挫キ得ル、シカモ其ノ時機ハ本年一杯頑張ル事ニ依テ歐洲各國ハ相互ニ疲レ米國ノ對日戰ハ米國ノ戰力ノ自失ニ依テ終ルトノ見極メヲ付ケタ首相ノ態度ト思フ

私ハ此ノ首相ノ豫想ハ決シテ荒唐的ノモノトハ思ハヌガ一面ソ聯ト云フ國柄ヲ考ヘネバナラヌ

ソ聯ガ歐洲戰ニ於テ疲弊シタカラトテ對日抗勢ヲ放棄シタトノ考ヘハ當ラヌ、若シ一時傳ヘラレタ沿海州北樺太ノ日本讓渡ノ如キコトハ漁業權ニ於テ一歩モ讓ラヌソ聯ガ應ズル條件デナイ事ハ明カデアルノミナラズソ聯ガ例ヘ對日戰ノ意ナシトシテモ米國ノ策謀ガ奏功セバ北方ハ米軍ノ好根據地トナル可能性ハ充分ダ

又「ヘス」ヲ仲介トスル獨英ノ關係モ實利外交ヲ本旨トスル獨逸ガ三國同[illegible]ニ束縛サレツツ自己ヲ犧牲ニシテ日本ニ道義ヲ維持スルカ、又

レ市ニ於ケル敗戰ガ土耳古ヲ初メ「バルカン」小國ニ如何ナル影響ヲ及ボスカ、決シテ日本ノ安全性ハ確固タルモノデナイ
此ノ世界状勢ヲ巧ミニ切リ拔ケテ行クニハ一面戰爭一面外交ノ方針ヲ確立セネバナラヌ
更ニコレニ併行シテ統制經濟ノ運營ニ工夫ヲシナケレバナラヌ現在運營ハ只統制會ヲ造リ上ゲル丈ケデ相互ニ少シモ聯絡性ガナイ爲メ炭坑ノ要求スル坑木ガ間尺ニ合ハヌ物シカ配給セズコレガ生産力低下ノ根本デアル、此樣ニバラバラノ統制策デハ何事モ出來ヌ現ニ昨年末ノ各閣僚ハ慫慂ニ近イ督勵行脚ニ巡リ歩イタ
コレハ何程督勵シ何程オダテテモ動キ樣ノナイ仕組ガ出來テ居ル事ニ氣付カヌ現方針デ絶對不可能デアル
丁度盲人ガ壁ノ何物タルカヲ知ラズ精根ヲ盡シテ押シ開ケントシテ居ルト同樣ダ
右ノ缺陷ニ首相ガ氣付イテ首相ノ權限強化ヲ企圖シタ樣ダガ既ニ現内閣ニ其ノ力量ガ喪失サレテ居ル今日東條ニ本當ノ愛國心ガアルナラ潔

ギ良ク徒冠スベキト考ヘル

○滿井佐吉（天關打開期成會）

今議會ヲ通ジテ議員ヲ觀ルニ眞劍ナ態度ヲ以テ臨マレテ居ルガ統制經濟ヲ始メ幾多不滿ハアル樣デアルガ時局ノ餘リ重大デアルコトヲ認識シテ居ルカラデアルト思フ

現下政黨ハ與政以外ニハナイノデアルガ新舊思想ト申スカ新舊議員ト申スカ新舊二ツノ流レノアルコトハ明確ニ窺ハレル

之レヲ思想的ニ觀タ場合ニハ新タナル方ノ極メテ少數ノ一部ニ日本的國家認識ガ認メラレルガ政治的ニ觀タナラ新舊共ニソレガ殆ド窺ハレナイ、議席ノ占有ニ汲々タルモノガアル樣デアル

今ヤ國ヲ擧ゲテ戰爭完勝ノ一點ニ集中シテ居ル秋ニ一地方ノ利害等ニ貴重ナ議席ヲ使フテ居ル向ガ多分ニアル

自分ハ戰時下木材ノ重要性ニ鑑ミ木材統制ニ微力ヲ捧ゲテ來タノデアルガ私ノ選擧區福岡デハ滿井ハ福岡ノ代議士デハナイトノ聲サヘアルコトヲ聞イテ居ルガ時局ヲ辨ヘザル認識不足ノ非難トシテ甘ジテ受ケ

流シテ居リマス
木材統制モ農相ノ言ニヨレバ地方中核体ハ依然府縣木材會社ヲ以テシ搬出ニ於テハ別ニ考慮シ買付資金ニ關シテハ興銀等ヲシテ協力セシムル程度ニテ本年度木材豫定數量ヲ確保シ得ルト云ハレテ居ルガモツト根本ニ觸レテ改善セネバ需給ノ圓滑ハ圖レナイノデハナイカト思フ、獨リ木材バカリデハナイ總テノ統制運營ガ殆ド此ノ樣ナ遣リ方ナノデアルガ現下重大時局ニ沒入シテ居ル關係上政府ノ方針通リ行クヨリ外ハナイト思フ
私ヲシテ云ハシムルナラ農林省、商工省、企畫院等ヲ始メ社會主義的ナ中國官僚ヲ整理セネバナラナイノデアルガ今度東條首相ハ戰時行政特例法ナル强權ヲ用ヒ全力ヲ戰力增强ニ注ガレルコトニナルガ東條サンノ決意ノ程ガ窺ハレ自ラ戰爭責任ヲ一身ニ引受ケラレル所ニ私ハ敬意ヲ表スルモノデアリマス
私的幕僚ノ排擊、或ハ一億結束ヲ策スガ如キ行動ニ對シテハ高位高官社會的地位等考慮セヌトノ態度ハ又當然ノコトト思ヒマス

○岩田愛之助（愛國社）

議會モ峠ヲ越シタネー

肝腎ノ豫算委員會モ大体終了シタ樣ダシモウ大シタコトナク行クダロウ先日ノ東條首相ノ答辯デアルガ、私ハ大キナ失言ヲシタト思ッテ居ル

卽チ部下ノ非行ト大臣ノ責任ニ就テ大戰下ニ於テ大臣ハ戰ニ勝ツ爲メニ大キナ範圍ニ於テ輔弼ノ全責任ヲモッテ起タネバナラヌ云ハ、亦勅任官等ニ一、二ノ非違ガアリテモ當該大臣ニ對シテハコノ點ノ處斷ハシッカリセヨ而シ職ヲ轉ジテ穩ニセヨ十分注意シテ行クヤウニ云ッテ居ル

更ニ他人ノ容喙ヲ許サナイト云フコトニナレバ議會其ノモノヲ否認シ且又他ノ大臣連中ハ總理大臣ノ云フコトヲ絕對的ニ聽カネバナラヌ結果ニナル

各大臣ハ夫々ノ立場ニ於テ大キナ輔弼ノ責任ガアリ亦部下ノ非行ニ對シテモ全責任ヲ負フベキモノデアル

東條ハ一部ノ官吏ニ不心得者ヲ出シタコトハ恐懼ニ堪ヘナイト云ッテ居リ作ラ不用意ノ間ニ他人ノ容喙ハ許サナイ等ト云フコトヲ云フテ了ッタト思フガ私ハ失言ダト思フ。東條サンハ本當ニ眞劍ニヤッテ居ルコトハ全國民齊シク認メルデアロウ亦今日ノ時局ニ於テ國民ヲ引張ッテ居ル事モ亦東條ノ忠誠心ノ顯レデアルト思フ、ガ然シ失言ハ取消シテ行クベキダト思フ戰時下ナレバ匡スベキハ匡シ將來共產主義ノ乘ズル隙ヲ與ヘヌ樣注意スベキデアル

農業團体ノ統合問題ト云ヒ產業組合ノ問題ト云フモ我々ハ今ノヤリ方デハ何ウカト思フ點ハ多々アルガ何レニシテモ我々ノ主張ハ通ラナイ現狀ナノデ困ッタモノダ

ソロモン群島方面ノ戰況ニ就キ發表サレタガ一部轉進ト云フコトハ當然デアリ私ハ此ノ事實ニ就テモ軍部ノ或ル人カラ聞イテ居タノデアリ今度ノ作戰ハ日本ニ有利トナル事ダロウ、少數ノ上陸部隊ニ對シ食糧彈藥ヲ運搬補給スル爲メニ誠ニ困難ナル狀況ニアッタノデ之レヲ徹退セシメタ方ガ有利ナコトハ確カデアル

亦三月ニナレバ「ミツトウイー」ノ戰況ヲ發表スルト云フコトダガ此ノ方面ノ部隊モ殆ンド全滅ト云フ狀態ラシイ

何レニシテモ第一線ハ非常ニ苦シイ戰爭ヲシテ居ルコトハ否定出來ナイ

第一線ハ言語ニ絕スル苦鬪ヲサレテ居ルノデアルガ國內ニ在ツテハ最近産業人ノ中ニハナル樣ニシカナラヌト云フ氣持チデ居ル樣ダ

亦最近産業戰士ニ對シテアマリオダテル爲メ彼等ハ自分等ガ戰爭ヲシテ居ルト云フ個人主義的色彩ガ濃厚ニナツテ來テ居ル

亦農民ハオレ等ガ作ラナケレバト云フ思想ニナツテ居ル、之レハ確カニ統制ノ失敗デアリ最近國民ハ官憲ノ壓迫ガ非道ノ爲メニ增産ドコロデハナク寧ロ恐レテ居リ士氣ハ昂揚サレテ居ナイ困ツタモノダ

ヤツパリ重箱ノ隅ヲホジクル樣ナヤリ方デハ駄目ダコレハ官ト云ハズ日本國民全體ノ心理ダロウ

來年度ノ貯蓄目標額ハ二七〇億ト云フコトダガ一人當ニスレバ二七〇圓ト云フコトニナル此ハ當然ダガ國民ハ物ヲ買ツタリ食ベタリスル金